

## 平成 22 年 国 勢 調 査

## 第 1 次 試 験 調 査 結 果 の 概 要

## 目 次

調査の概要 .....	1
調査票の集計結果 .....	5
記録表の取りまとめ結果 .....	23
世帯アンケートの集計結果 .....	43

「記録表の取りまとめ結果」は、調査員記録表、調査状況等記録表及び審査結果記録表に基づいたものであり、「調査票の集計結果」と一致しない場合がある。

平成 19 年 12 月

国 勢 統 計 課

## 調査の概要

### 1 調査の目的

平成22年国勢調査第1次試験調査は、調査方法、調査事務及びこれに関連する事項について、実地の検討を行い、国勢調査の実施計画の立案に必要な基礎資料を得ることを目的として実施

### 2 調査の地域

#### 市区町

福島県福島市、福島県白河市、東京都大田区、東京都板橋区、愛知県岡崎市、愛知県刈谷市、京都府京都市、京都府長岡京市、山口県宇部市、山口県平生町、愛媛県松山市、愛媛県砥部町、福岡県久留米市及び福岡県前原市の14市区町

#### 調査区

上記市区町の区域に属する平成17年国勢調査調査区の中から、地域特性を考慮して選定した448調査区

### 3 調査の期日及び日程

#### 調査の期日

平成19年7月6日(金)午前零時現在

#### 調査の日程

#### 【調査票配布期間延長型】

##### 調査地域の確認

及び『調査についてのお願い』の配布 6月18日(月)～6月20日(水)

調査票の配布 6月21日(木)～7月5日(木)

#### 【調査票配布期間従来型】

##### 調査地域の確認

及び『調査についてのお願い』の配布 6月25日(月)～6月27日(水)

調査票の配布 6月28日(木)～7月5日(木)

調査期日

7月6日(金)

『調査票の提出はお済みですか』

(確認状)の配布 7月6日(金)～7月12日(木)

世帯からの申し出による調査票

の回収 7月6日(金)～7月12日(木)

調査書類の市区町への提出 7月6日(金)～7月12日(木)

調査票の郵送提出期限 7月12日(木)

調査票の回収状況の把握・管理 7月9日(月)～7月17日(火)  
調査票未提出世帯の確認及び調査員に対する調査票未提出世帯の指示 7月13日(金)～7月17日(火)  
調査票未提出世帯からの調査票の回収 7月18日(水)～7月29日(日)  
世帯からの調査票の最終提出期限 7月31日(火)

#### 4 調査の対象

調査の対象は、調査の期日において、調査の地域内に常住する者  
ただし、外国政府の外交使節団又は領事機関の構成員及び外国軍隊の軍人・軍属並びにこれらの家族を除く

#### 5 調査事項及び調査票

調査区ごとに、記入方法が異なる2種類のOCR(光学式文字読取)調査票(甲・乙)を用いて、次の事項を調査

##### ア 世帯員に関する事項(16項目)

(ア) 氏名	《調査票(甲)》
(イ) 男女の別	(シ) 所属の事業所の名称、事業の内容及び事業の種類
(ウ) 出生の年月	(ス) 仕事内容及び仕事の種類
(エ) 世帯主との続柄	《調査票(乙)》
(オ) 配偶の関係	(シ) 所属の事業所の事業の内容
(カ) 国籍	(ス) 仕事の内容
(キ) 現在の住居における居住期間	(セ) 従業上の地位
(ク) 5年前の住居の所在地	(ソ) 従業地又は通学地
(ケ) 在学、卒業等教育の状況	(タ) 従業地又は通学地までの利用交通手段
(コ) 就業状態	
(サ) 就業時間	

##### イ 世帯に関する事項(6項目)

(ア) 世帯の種類	(I) 住居の種類
(イ) 世帯員の数	(オ) 住宅の床面積の合計
(ウ) 家計の収入の種類	(カ) 住宅の建て方

#### 6 調査の方法

##### 調査の流れ

調査は、総務省統計局 - 都府県 - 市区町 - 調査員 - 世帯の流れにより実施

## 調査の方法

ア 調査票の配布は、「調査票配布期間延長型」と「調査票配布期間従来型」の二つの方法で実施

### (ア)調査票配布期間延長型

調査員は、調査期日前の約2週間で世帯と面接し、記入依頼を行った上で調査票を配布

なお、世帯が不在等で面接できない場合であっても、再三訪問して世帯との面接に努め、最終的に世帯と面接できない場合は、調査票を郵便受けに入れるなどして配布

### (イ)調査票配布期間従来型

調査員は、調査期日前の約1週間で世帯と面接し、記入依頼を行った上で調査票を配布

なお、世帯が不在等で面接できない場合は、日・時間を変えて訪問することとし、その訪問回数の上限を3回とする。この訪問回数内に世帯と面接できない場合は、調査票を郵便受けに入れるなどして配布

イ 調査票の提出は、市区町への郵送により行うことを原則とするが、調査員への提出や役所への直接提出についても可

ウ 調査期日以後、調査員は調査区内の全世帯に対し、『調査票の提出はお済みですか』（確認状）を配布

エ 所定の期間内に調査票が提出されていない世帯（調査票未提出世帯）があった場合、調査員は、市区町からの指示に基づき、次の方法により、当該世帯からの調査票を回収

(ア)調査票未提出世帯を訪問し、面接の上、調査票を直接回収

(イ)調査票未提出世帯が不在等の場合は、再三訪問して世帯との面接に努める。

なお、世帯と面接できないなど、最終的に調査票の提出を直接依頼できない場合には、『調査票提出のお願い』（督促状）及び調査票等を当該世帯の郵便受けに入れるなどして配布

## 申告の方法

申告は、世帯主（世帯の代表者を含む）又は世帯員が調査票に記入する方法

## 7 世帯アンケートの実施

### 調査の対象

第1次試験調査の調査の対象と同じ。

### 把握事項

ア 調査員について

(ア)訪問した調査員は顔見知りか否か

(イ)郵送提出による調査方法の場合、調査員は顔見知りがよいかどうか

## イ 調査方法について

(ア)調査票の受取状況

(イ)調査票の提出状況

(ウ)郵送提出による調査票の提出方法に関する意見

(エ)インターネットを利用した回答方法に関する意見

## ウ 調査票及び「調査票の記入のしかた」について

(ア)「住宅の床面積の合計（延べ面積）」の記入に関する意見

(イ)「勤め先・業主などの名称及び事業の内容」の記入に関する意見

調査票乙の場合は「勤め先・業主などの事業の内容」

(ウ)「本人の仕事の内容」の記入に関する意見

## エ 回答者の属性について

(ア)性別、年齢

(イ)世帯内の世帯人員

(ウ)居住している住居形態

## オ その他

その他、今回の試験調査や国勢調査に関する意見

## 実施方法

### ア 調査の流れ

調査は、総務省統計局 都府県 市区町 調査員 世帯の流れにより実施  
ただし、アンケートの回収は、世帯が総務省統計局に直接郵送することにより実施

### イ 調査の方法

調査は、調査票未回収世帯からの調査票の回収期間中に、調査員が世帯ごとに世帯アンケート及び総務省統計局あての返送用封筒等を世帯に配布し、アンケートの記入及び平成19年7月末までの返送を依頼する方法で実施

### ウ 申告の方法

申告は、世帯主（世帯の代表者を含む。）又は世帯員がアンケートに記入することにより実施

### 回収率

世帯アンケートは、23,748 の対象世帯に依頼し、10,575 世帯から返送（回収率：44.5%）

## 8 その他

第1次試験調査及び世帯アンケートは、国勢調査令第15条第1項第6号及び第2項第8号に規定する「調査方法についての基礎調査」として実施

なお、調査の実施については、統計報告調整法に基づく統計報告の徴集（いわゆる承認統計調査）として承認

## 調査票の集計結果

### 1 調査票の提出状況

#### 全体の状況

14 市区町全体で、調査票を提出した世帯数は 18,392 世帯（77.4%）、調査票を提出していない世帯数は 5,356 世帯（22.6%）となっている。

調査票を提出した世帯について、提出方法別にみると、郵送提出が 16,588 世帯（90.2%）と最も多く、調査員による回収は 1,369 世帯（7.4%）となっている。

また、調査票を提出した世帯について、提出時期別にみると、当初の提出期間に調査票を提出した世帯数は 15,100 世帯（82.1%）、調査票未提出世帯からの調査票回収（以下「フォローアップ回収」という。）期間に調査票を提出した世帯数は 3,261 世帯（17.7%）となっている。

当初の提出期間に調査票を提出した世帯について、提出方法別にみると、郵送提出の割合が 96.2%と極めて高くなっている。フォローアップ回収期間の提出方法についてみると、調査員による回収を原則としたため、当初回収に比べ、調査員回収の割合が高くなっているものの、その割合は郵送提出より低くなっている。

調査票提出状況別世帯数

	総数	総数				当初回収				フォローアップ回収				未回収
		総数 (注)	郵送 提出	調査員 回収	市区町 に直接 提出	総数	郵送 提出	調査員 回収	市区町 に直接 提出	総数	郵送 提出	調査員 回収	市区町 に直接 提出	
総数	23,748	18,392	16,588	1,369	404	15,100	14,530	221	349	3,261	2,058	1,148	55	5,356
構成比 1 (%)	100.0	77.4	69.9	5.8	1.7	63.6	61.2	0.9	1.5	13.7	8.7	4.8	0.2	22.6
構成比 2 (%)	-	100.0	90.2	7.4	2.2	82.1	79.0	1.2	1.9	17.7	11.2	6.2	0.3	-
構成比 3 (%)	-	100.0	90.2	7.4	2.2	100.0	96.2	1.5	2.3	100.0	63.1	35.2	1.7	-

(注) 提出時期及び提出方法の不詳を含む

#### 【参考】平成 17 年国勢調査第 1 次試験調査（郵送方式）の調査票の提出状況

	総数	1次受付 期間内に 提出され た調査票	督促状投 函後に提 出された 調査票	直接収集 した調査 票	聞き取り 調査票	その他
総数	2,105	66.1	13.3	14.2	5.5	0.8
地域 特性						
新興住宅の多い地域	455	64.8	14.9	9.5	2.4	0.2
その他一戸建地域	427	52.9	14.8	16.9	3.7	0.9
オートロックマンション・ワルムマンション地域	401	60.1	11.5	7.5	11.7	0.5
その他の共同住宅地域	414	57.2	12.6	17.9	3.1	0.7
繁華街、商店街などの地域	408	50.0	12.7	19.6	7.1	1.7

#### 平成17年国勢調査第1次試験調査（郵送方式）の調査票提出に係る日程

- ・調査日 7月13日（土）
- ・1次受付・提出状況の確認 7月15日（月）～7月23日（火）
- ・督促状の配布 7月25日（木）～7月26日（金）
- ・2次受付・提出状況の確認 7月24日（水）～7月30日（火）
- ・未提出世帯からの調査票の回収 8月1日（木）～8月4日（日）

## 地域特性別の状況

地域特性別にみると、一戸建の多い地域（90.6%）で調査票を提出した世帯の割合が高くなっている。一方、ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域（53.2%）で調査票を提出した世帯の割合が低くなっている。

なお、外国人の調査に当たっては、外国語に翻訳した調査書類を用い、この書類にも郵送提出の旨を記述したところであるが、外国人の多い地域においては、他の地域に比べ、当初回収における調査員回収の割合が比較的高くなっている。

地域特性別調査票提出世帯数

	総数	総数				当初回収				フォローアップ回収				未回収
		総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	
実数														
一戸建の多い地域	6,643	6,017	5,404	457	156	5,088	4,859	89	140	929	545	368	16	621
共同住宅の多い地域	6,854	5,097	4,415	504	178	3,989	3,801	41	147	1,108	614	463	31	1,754
建物1棟でいくつかの調査区を構成しているオートロックマンション	4,787	3,784	3,587	165	32	3,214	3,170	16	28	570	417	149	4	992
ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域	2,915	1,552	1,463	70	19	1,258	1,229	12	17	294	234	58	2	1,359
外国人の多い地域	2,549	1,908	1,716	173	19	1,551	1,471	63	17	357	245	110	2	633
構成比（%）														
一戸建の多い地域	100.0	90.6	81.3	6.9	2.3	76.6	73.1	1.3	2.1	14.0	8.2	5.5	0.2	9.3
共同住宅の多い地域	100.0	74.4	64.4	7.4	2.6	58.2	55.5	0.6	2.1	16.2	9.0	6.8	0.5	25.6
建物1棟でいくつかの調査区を構成しているオートロックマンション	100.0	79.0	74.9	3.4	0.7	67.1	66.2	0.3	0.6	11.9	8.7	3.1	0.1	20.7
ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域	100.0	53.2	50.2	2.4	0.7	43.2	42.2	0.4	0.6	10.1	8.0	2.0	0.1	46.6
外国人の多い地域	100.0	74.9	67.3	6.8	0.7	60.8	57.7	2.5	0.7	14.0	9.6	4.3	0.1	24.8

## 調査票の種類別の状況

「事業所・業主などの名称」を記入する調査票甲（B4判）と、「事業所・業主などの名称」を記入しない調査票乙（A4判）で調査を実施したが、調査票の違いによる調査票の提出状況に差異はなかった。

調査票の種類別調査票提出別世帯数

	総数	総数				当初回収				フォローアップ回収				未回収
		総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	
実数														
調査票甲	12,012	9,337	8,433	662	242	7,760	7,402	147	211	1,577	1,031	515	31	2,655
調査票乙	11,736	9,024	8,155	707	162	7,340	7,128	74	138	1,684	1,027	633	24	2,701
構成比（%）														
調査票甲	100.0	77.7	70.2	5.5	2.0	64.6	61.6	1.2	1.8	13.1	8.6	4.3	0.3	22.1
調査票乙	100.0	76.9	69.5	6.0	1.4	62.5	60.7	0.6	1.2	14.3	8.8	5.4	0.2	23.0

## 調査票配布期間別の状況

世帯が不在の場合であっても、再三世帯を訪問するため調査票配布期間を15日間とした「延長型」と、世帯が不在の場合の訪問回数の上限（3回）を定めて従来の調査票配布期間（8日間）とした「従来型」の二通りの設定で調査を実施したが、調査票配布期間の設定の違いによる調査票の提出状況に差異はなかった。

なお、「延長型」の方が調査票を提出した世帯の割合が若干低くなっているが、これは調査票配布期間が長いことにより、調査協力の意識が持続しない、また、調査票の提出を忘れてしまうなどの状況が考えられる。

調査票配布期間別調査票提出世帯数

	総数	総数				当初回収				フォローアップ回収				未回収
		総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	
実数														
延長型	11,904	8,990	8,155	620	215	7,376	7,105	91	180	1,614	1,050	529	35	2,898
従来型	11,844	9,368	8,430	749	189	7,724	7,425	130	169	1,644	1,005	619	20	2,461
構成比(%)														
延長型	100.0	75.5	68.5	5.2	1.8	62.0	59.7	0.8	1.5	13.6	8.8	4.4	0.3	24.3
従来型	100.0	79.1	71.2	6.3	1.6	65.2	62.7	1.1	1.4	13.9	8.5	5.2	0.2	20.8

## 調査員の経験年数別の状況

調査員の経験年数による調査票の提出状況に差異はなかった。

調査員の経験年数別調査票提出世帯数

	総数	総数				当初回収				フォローアップ回収				未回収
		総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	
実数														
0年	6,733	5,314	4,758	379	177	4,437	4,228	46	163	877	530	333	14	1,408
1年	3,900	2,914	2,601	224	89	2,476	2,354	43	79	438	247	181	10	986
2年	3,912	3,063	2,802	229	32	2,603	2,539	41	23	460	263	188	9	848
3年～5年	4,027	3,019	2,725	240	54	2,239	2,170	27	42	780	555	213	12	1,005
6年～9年	1,966	1,627	1,483	124	20	1,337	1,307	17	13	290	176	107	7	334
10年以上	3,210	2,421	2,216	173	32	2,008	1,932	47	29	413	284	126	3	778
構成比(%)														
0年	100.0	78.9	70.7	5.6	2.6	65.9	62.8	0.7	2.4	13.0	7.9	4.9	0.2	20.9
1年	100.0	74.7	66.7	5.7	2.3	63.5	60.4	1.1	2.0	11.2	6.3	4.6	0.3	25.3
2年	100.0	78.3	71.6	5.9	0.8	66.5	64.9	1.0	0.6	11.8	6.7	4.8	0.2	21.7
3年～5年	100.0	75.0	67.7	6.0	1.3	55.6	53.9	0.7	1.0	19.4	13.8	5.3	0.3	25.0
6年～9年	100.0	82.8	75.4	6.3	1.0	68.0	66.5	0.9	0.7	14.8	9.0	5.4	0.4	17.0
10年以上	100.0	75.4	69.0	5.4	1.0	62.6	60.2	1.5	0.9	12.9	8.8	3.9	0.1	24.2

## 担当調査区の地理についての調査員の認知度別の状況

担当調査区の地理について、調査員がどの程度知っていたかの別による調査票の提出状況に差異はなかった。

担当調査区内の地理についての調査員の認知度別調査票提出世帯数

	総数	総数				当初回収				フォローアップ回収				未回収
		総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	
実数														
よく知っていた	9,154	7,422	6,787	456	179	6,305	6,045	101	159	1,117	742	355	20	1,718
多少知っていた	10,102	7,389	6,591	645	153	5,884	5,668	87	129	1,505	923	558	24	2,702
ほとんど知らなかった	3,965	3,128	2,804	252	72	2,533	2,439	33	61	595	365	219	11	833
構成比(%)														
よく知っていた	100.0	81.1	74.1	5.0	2.0	68.9	66.0	1.1	1.7	12.2	8.1	3.9	0.2	18.8
多少知っていた	100.0	73.1	65.2	6.4	1.5	58.2	56.1	0.9	1.3	14.9	9.1	5.5	0.2	26.7
ほとんど知らなかった	100.0	78.9	70.7	6.4	1.8	63.9	61.5	0.8	1.5	15.0	9.2	5.5	0.3	21.0

### 担当調査区内の世帯についての調査員の認知度別の状況

担当調査区内の世帯について、調査員がどの程度知っていたかの別みると、調査区内の世帯をよく知っていた地域で調査票を提出した世帯の割合が高くなっている。

担当調査区内の世帯についての調査員の認知度別調査票提出世帯数

	総数	総数				当初回収				フォローアップ回収				未回収	
		総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出	総数	郵送提出	調査員回収	市区町に直接提出		
実数	よく知っていた	2,817	2,397	2,140	154	103	2,075	1,938	45	92	322	202	109	11	413
	多少知っていた	5,670	4,291	3,962	226	103	3,654	3,519	36	99	637	443	190	4	1,367
	ほとんど知らなかった	14,560	11,087	9,949	944	194	8,860	8,566	139	155	2,227	1,383	805	39	3,461
構成比(%)	よく知っていた	100.0	85.1	76.0	5.5	3.7	73.7	68.8	1.6	3.3	11.4	7.2	3.9	0.4	14.7
	多少知っていた	100.0	75.7	69.9	4.0	1.8	64.4	62.1	0.6	1.7	11.2	7.8	3.4	0.1	24.1
	ほとんど知らなかった	100.0	76.1	68.3	6.5	1.3	60.9	58.8	1.0	1.1	15.3	9.5	5.5	0.3	23.8

### 調査票配布時の調査員の訪問回数別の状況

調査票を提出した世帯について、調査員の訪問回数別の提出状況をみると、当初回収においては、訪問回数1回で調査票を提出した世帯の割合が、調査票配布期間「延長型」及び「従来型」のいずれでも4割を超えている。また、訪問回数が3回以内で提出した世帯の割合は、約8割以上となっている。

なお、調査票配布期間「従来型」であっても、調査員が定められた訪問回数(3回)の上限を超えて訪問した世帯が744世帯(9.8%)あった。

調査票配布時の調査員の訪問回数別調査票提出世帯数

	総数	当初回収					
		訪問回数1回	訪問回数2回	訪問回数3回	訪問回数4回	訪問回数5回以上	
延長型	総数	6,969	3,257	1,686	858	495	673
	構成比(%)	100.0	46.7	24.2	12.3	7.1	9.7
従来型	総数	7,569	3,265	2,041	1,519	470	274
	構成比(%)	100.0	43.1	27.0	20.1	6.2	3.6

調査員記録表で訪問回数の記入のある世帯についてのみ集計

また、フォローアップ回収においては、調査票を提出した世帯の約8割は、調査員の訪問回数が4回以内となっている。

調査員の訪問回数別調査票提出世帯数

	フォローアップ回収					
	総数	訪問回数1回	訪問回数2回	訪問回数3回	訪問回数4回	訪問回数5回以上
総数	2,528	568	662	587	316	395
構成比(%)	100.0	22.5	26.2	23.2	12.5	15.6

調査員記録表で訪問回数の記入のある世帯についてのみ集計

第1次試験調査では、世帯が調査票に記入した内容について、調査員による検査は行わないこととし、また、市区町による審査において記入不備を検出しても、記入内容を直接訂正しないこととした（市区町による訂正は赤鉛筆を使用）。

以下は、世帯が記入した内容に基づいて集計を行ったものである。

なお、人口・世帯に関する統計を集計する上で最も基本的な調査項目である「男女の別」、「出生の年月」、「世帯主との続き柄」、「配偶の関係」及び「国籍」のすべてが記入漏れ（調査票第1面・第2面ともに白紙を含む）の世帯については、集計対象から除外している。

## 2 調査票を提出した世帯の属性

### 世帯数

調査票を提出した世帯数は、14市区町全体で18,322世帯であった。これを世帯の種類・世帯人員別にみると、世帯員数2人の世帯が4,981世帯（27.2%）と最も多く、次いで世帯員数1人の世帯が多くなっている。

世帯数、世帯人員

	総数			一般世帯							施設等の世帯 <sup>(注)</sup>	
	世帯数	世帯人員	平均世帯人員	総数	世帯員数別世帯数					平均世帯人員	世帯数	平均世帯人員
					1人	2人	3人	4人	5人以上			
総数	18,322	45,834	2.50	17,518	4,499	4,981	3,350	3,000	1,335	2.56	92	1.73
構成比(%)	100.0	-	-	95.6	24.6	27.2	18.3	16.4	7.3	-	0.5	-

(注)「施設等の世帯」とは、住宅以外の建物に居住する者(学校の学生寮・寄宿舎の学生・生徒、病院・診療所の入院者、老人ホーム等の社会施設の入所者、その他)の集まり。

### 人口

調査票を提出した世帯人員(以下「人口」という。)は、14市区町全体で46,154人<sup>(注)</sup>であった。これを年齢階級別にみると、20歳未満人口が8,488人(18.4%)と最も多く、次いで50～59歳人口、30～39歳人口の順に多くなっている。

(注)この数値は、世帯員に関する調査項目に記入された人員を集計したものである。上記(1)の世帯人員(45,834人)は、世帯に関する調査項目である「世帯員の数」を集計したものであり、世帯の記入不備により、数値が異なっている。

年齢階級別人口

	総数	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不詳
総数	46,154	8,488	4,706	6,592	6,059	6,632	5,410	3,746	1,897	2,624
構成比(%)	100.0	18.4	10.2	14.3	13.1	14.4	11.7	8.1	4.1	5.7

### 3 調査票の記入状況

調査項目に記入漏れ、ダブルマーク等の記入不備のある世帯数は 14,344 世帯 (78.3%)、記入不備のない世帯数は 3,978 世帯 (21.7%) となっている。

調査項目別にみると、世帯員に関する調査項目(以下「世帯員項目」という。)に記入不備のある世帯は 11,899 世帯(64.9%)、世帯に関する調査項目(以下「世帯項目」という。)に記入不備のある世帯は 7,338 世帯 (40.1%) となっている。

記入不備の状況別世帯数

	総数	記入不備のない世帯	記入不備のある世帯	世帯員項目に記入不備のある世帯	うち第2面が白紙		(別掲) 調査票第1面・第2面ともに白紙
					世帯項目に記入不備のある世帯		
総数	18,322	3,978	14,344	11,899	15	7,338	52
構成比(%)	100.0	21.7	78.3	64.9	0.1	40.1	-

調査票1枚当たりの記入不備件数をみると、総数 2.77 件のうち、記入漏れが 2.51 件、記入誤りが 0.26 件となっている。

調査票1枚当たりの記入不備件数

	記入不備						(参考)
	総数	記入漏れ	記入誤り	うちダブルマーク	うち右づめ誤り	うち規定コード以外	過剰記入
総数	2.77	2.51	0.26	0.14	0.07	0.06	1.75

【参考】平成22年国勢調査第1次試験調査と平成17年国勢調査第1次試験調査との比較

調査票1枚当たりの記入漏れ件数

	平成22年国勢調査第1次試験調査	平成17年国勢調査第1次試験調査	
		郵送方式	全封入方式
男女の別	0.02	0.01	0.01
世帯主との続き柄	0.03	0.06	0.03
出生の年月	元号・西暦	0.07	0.14
	年月	0.03	0.15
配偶の関係	0.14	0.17	0.13
国籍	マーク	0.04	0.10
	国名	0.00	0.00
就業状態	0.19	0.20	0.15
就業時間	0.04	0.04	0.05
従業地又は通学地	マーク	0.19	0.21
	所在地	0.11	0.29
従業上の地位	0.05	0.06	0.04
世帯員の数	0.24	0.04	0.05
住居の種類	0.03	0.03	0.02
住宅の建て方	0.03	0.05	0.05
住宅の床面積の合計	0.08	0.12	0.08

共通調査項目のみ

#### 4 世帯員項目の記入状況

##### 全体の状況

世帯員項目全体での記入不備の割合は6.5%であり、記入不備の内容としては記入漏れの割合が最も高くなっている。

	総数	正記入	記入不備				
			総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外
総数	100.0	93.5	6.5	5.9	0.3	0.2	0.2

##### 調査項目別の状況

調査項目別にみると、「在学か否かの別」が18.2%、「学校区分」が13.0%と「在学、卒業等教育の状況」の記入不備の割合が高くなっている。また、「従業地又は通学地」(マーク)、「5年前の住居の所在地」(マーク・所在地)及び「国籍」(国名)の記入不備の割合が、10%以上となっている。

調査項目別記入不備率 ( % )

	総数	正記入	記入不備					補筆可 (注)	(参考) 過剰記入	
			総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外			
総数	100.0	93.5	6.5	5.9	0.3	0.2	0.2	1.7	5.0	
男女の別	100.0	99.0	1.0	0.9	0.0	-	0.0	0.1	-	
世帯主との続き柄	100.0	98.3	1.7	1.4	0.2	-	0.0	0.3	-	
出生の年月	元号・西暦	100.0	96.7	3.3	3.1	0.2	-	0.0	0.6	-
	年	100.0	96.5	3.5	0.6	-	2.4	0.6	0.1	-
月	100.0	98.2	1.8	0.7	-	0.2	1.0	0.1	-	
配偶の関係	100.0	93.6	6.4	6.3	0.0	-	0.0	1.2	-	
国籍	マーク	100.0	98.1	1.9	1.9	0.0	-	0.0	0.4	-
	国名	100.0	89.1	10.9	10.8	-	-	0.1	0.0	0.0
現在の住居における居住期間	100.0	98.3	1.7	1.3	0.3	-	0.0	0.2	-	
5年前の住居の所在地	マーク	100.0	88.8	11.2	10.9	0.3	-	0.0	17.6	61.7
	所在地	100.0	88.9	11.1	11.1	-	-	0.1	7.4	9.3
在学、卒業等教育の状況	在学か否かの別	100.0	81.8	18.2	18.1	0.1	-	0.0	3.9	-
	学校区分	100.0	87.0	13.0	12.7	0.3	-	0.0	2.7	-
就業状態	100.0	90.3	9.7	8.6	1.1	-	0.0	2.4	-	
就業時間	100.0	95.2	4.8	3.2	-	0.1	1.6	0.8	2.1	
従業地又は通学地	マーク	100.0	86.3	13.7	13.4	0.3	-	0.0	3.2	0.4
	所在地	100.0	91.1	8.9	8.8	-	-	0.1	7.2	0.2
利用交通手段	100.0	90.7	9.3	8.7	0.6	-	0.0	0.5	0.5	
従業上の地位	100.0	94.6	5.4	4.6	0.8	-	0.0	0.6	0.2	
事業の種類(調査票甲のみ)	100.0	91.4	8.6	7.3	1.4	-	0.0	0.1	0.1	
仕事の種類(調査票甲のみ)	100.0	91.1	8.9	7.7	1.2	-	0.0	0.1	0.1	

(注)「補筆可」は、市区町による審査で補筆訂正された項目の数。以下、同じ。

## 調査票の種類別の状況

調査票の種類による世帯員項目の記入不備の状況に差異はなかった。

調査票による比較

(%)

	調査票甲										調査票乙									
	総数	正記入	記入不備					補筆可	過剰記入	(参考)	総数	正記入	記入不備					補筆可	過剰記入	(参考)
			総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外						総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外			
総数	100.0	93.4	6.6	6.0	0.3	0.2	0.2	1.5	4.9	100.0	93.5	6.5	5.9	0.3	0.2	0.2	1.9	5.1		
男女の別	100.0	99.0	1.0	1.0	0.0	-	0.0	0.2	-	100.0	99.1	0.9	0.9	0.0	-	0.0	0.1	-		
世帯主との続柄	100.0	98.3	1.7	1.5	0.2	-	0.0	0.3	-	100.0	98.4	1.6	1.4	0.2	-	0.0	0.3	-		
出生の年月	元号・西暦	100.0	96.6	3.4	3.3	0.1	-	0.0	0.6	-	100.0	96.8	3.2	3.0	0.2	-	0.0	0.6	-	
	年	100.0	96.5	3.5	0.5	-	2.4	0.6	0.1	-	100.0	96.5	3.5	0.6	-	2.4	0.5	0.1	-	
	月	100.0	98.3	1.7	0.6	-	0.1	1.0	0.1	-	100.0	98.0	2.0	0.8	-	0.2	1.0	0.1	-	
配偶の関係	100.0	95.0	5.0	5.0	0.0	-	0.0	1.0	-	100.0	92.3	7.7	7.7	0.0	-	0.0	1.3	-		
国籍	マーク	100.0	98.2	1.8	1.8	0.0	-	0.0	0.3	-	100.0	98.0	2.0	2.0	0.0	-	0.0	0.4	-	
	国名	100.0	89.8	10.2	10.2	-	-	0.0	0.0	0.0	100.0	88.3	11.7	11.4	-	-	0.3	0.0	0.0	
現在の住居における居住期間	100.0	98.4	1.6	1.3	0.3	-	0.0	0.2	-	100.0	98.3	1.7	1.4	0.3	-	0.0	0.2	-		
5年前の住居の所在地	マーク	100.0	88.7	11.3	11.0	0.3	-	0.0	17.1	62.4	100.0	88.9	11.1	10.8	0.3	-	0.0	18.0	61.0	
	所在地	100.0	86.6	13.4	13.4	-	-	0.1	6.6	9.4	100.0	90.9	9.1	9.0	-	-	0.1	8.2	9.2	
在学、卒業等教育の状況	在学か否かの別	100.0	81.7	18.3	18.2	0.1	-	0.0	3.6	-	100.0	82.0	18.0	18.0	0.1	-	0.0	4.3	-	
	学校区分	100.0	86.8	13.2	12.9	0.3	-	0.0	2.5	-	100.0	87.1	12.9	12.5	0.4	-	0.0	2.8	-	
就業状態	100.0	90.6	9.4	8.4	1.1	-	0.0	2.0	-	100.0	89.9	10.1	8.8	1.2	-	0.0	2.7	-		
就業時間	100.0	95.2	4.8	3.2	-	0.0	1.5	0.8	2.1	100.0	95.1	4.9	3.1	-	0.1	1.6	0.7	2.0		
従業地又は通学地	マーク	100.0	85.7	14.3	14.0	0.3	-	0.0	3.2	0.3	100.0	86.8	13.2	12.8	0.3	-	0.0	3.2	0.5	
	所在地	100.0	90.3	9.7	9.6	-	-	0.1	6.5	0.2	100.0	92.0	8.0	8.0	-	-	0.1	7.9	0.2	
利用交通手段	100.0	90.7	9.3	8.6	0.7	-	0.0	0.6	0.4	100.0	90.8	9.2	8.7	0.5	-	0.0	0.5	0.5		
従業上の地位	100.0	94.9	5.1	4.4	0.7	-	0.0	0.6	0.2	100.0	94.4	5.6	4.7	0.9	-	0.0	0.7	0.3		
事業の種類(調査票甲のみ)	100.0	91.4	8.6	7.3	1.4	-	0.0	0.1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
仕事の種類(調査票甲のみ)	100.0	91.1	8.9	7.7	1.2	-	0.0	0.1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

## 5 世帯項目の記入状況

### 全体の状況

世帯項目全体での記入不備の割合は 10.0% であり、記入不備の内容としては記入漏れの割合が最も高くなっている。

	総数	正記入	記 入 不 備				
			総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外
総数	100.0	90.0	10.0	9.1	0.7	0.1	0.1

### 調査項目別の状況

調査項目別にみると、「世帯員の数」の記入不備の割合（28.0%）が最も高くなっている。また、「住宅の床面積の合計」と「電話番号」の記入不備の割合が、10%以上となっている。

「世帯員の数」の記入不備の割合が高いことについては、男女いずれか一方しかいない場合に、「世帯員の数」の男・女欄に「0」を記入していないことが理由の一つとして考えられる。

調査項目別記入不備率

	総数	正記入	記 入 不 備					補筆可	(参考)	
			総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外		過剰記入	
総 数	100.0	90.0	10.0	9.1	0.7	0.1	0.1	10.6	1.5	
世帯員の数	100.0	72.0	28.0	27.0	-	0.9	0.1	4.0	-	
家計の収入の種類	主なもの	100.0	96.5	3.5	1.6	1.9	-	0.0	0.3	-
	従なもの	100.0	100.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.1	8.5
住居の種類	100.0	97.0	3.0	2.9	0.1	-	0.0	0.9	-	
住宅の建て方	100.0	96.7	3.3	3.2	0.1	-	0.0	1.3	2.8	
うち 共同住宅	建物全体の階数	100.0	99.0	1.0	0.8	-	0.0	0.2	0.8	7.0
	住宅のある階数	100.0	96.4	3.6	3.4	-	0.1	0.2	1.1	6.3
住宅の床面積の合計	100.0	87.3	12.7	9.3	3.2	0.1	0.2	2.1	0.5	
(電話番号)	100.0	82.2	17.8	17.8	-	-	0.0	0.0	-	

## 調査票の種類別の状況

調査票の種類別にみると、調査票甲の「住宅の床面積の合計」の記入不備の割合が、調査票乙に比べて高くなっている。これは、平方メートルの記入欄と坪の記入欄の双方に記入されている事例があることによる。

調査票による比較

(%)

	調査票甲										調査票乙								
	総数	正記入	記入不備					補筆可	(参考)	総数	正記入	記入不備					補筆可	(参考)	
			総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外					総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外			
総数	100.0	89.6	10.4	9.1	1.1	0.2	0.1	4.8	1.6	100.0	90.4	9.6	9.1	0.4	0.1	0.0	5.9	1.4	
世帯員の数	100.0	71.3	28.7	27.6	-	0.9	0.2	1.8	-	100.0	72.6	27.4	26.4	-	0.8	0.1	2.2	-	
家計の収入の種類	主なもの	100.0	96.6	3.4	1.7	1.7	-	0.0	0.1	-	100.0	96.3	3.7	1.5	2.2	-	0.0	0.2	-
	従なもの	100.0	100.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	1.7	100.0	100.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.1	1.4
住居の種類	100.0	96.9	3.1	2.9	0.1	-	0.0	0.3	-	100.0	97.1	2.9	2.8	0.1	-	0.0	0.5	-	
住宅の建て方	100.0	97.1	2.9	2.9	0.0	-	0.0	0.6	2.7	100.0	96.3	3.7	3.6	0.1	-	0.0	0.7	2.6	
うち 共同住宅	建物全体の階数	100.0	99.0	1.0	0.9	-	0.0	0.1	0.4	3.4	100.0	98.9	1.1	0.7	-	0.1	0.3	0.5	2.8
	住宅のある階数	100.0	98.3	1.7	1.5	-	0.1	0.1	0.4	2.9	100.0	94.3	5.7	5.5	-	0.0	0.2	0.7	2.6
住宅の床面積の合計	100.0	83.5	16.5	10.0	6.0	0.1	0.3	1.1	0.5	100.0	91.2	8.8	8.5	0.2	-	0.0	1.1	0.5	
(電話番号)	100.0	82.3	17.7	17.7	-	-	0.0	0.0	-	100.0	82.1	17.9	17.9	-	-	0.0	0.0	-	

6 「5年前の住居の所在地」の記入状況

「5年前の住居の所在地」の区分の記入状況

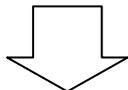
国勢調査では、政令指定都市に居住する者の「区」間の移動を正確に把握するため、これまで大都市用と一般地域用の2種類の調査票を用いている。

第1次試験調査では、調査票の統合（経費の合理化）を図る観点から、次のような選択肢であっても、政令指定都市の「区」間の移動を正確に把握することができるかについて検証したところ、14市区町全体で95.4%が正確に記入されている。

なお、平成17年国勢調査第1次試験調査において、「従業地又は通学地」について、同様の検証を行っており、このときは全体の72.3%が正確に記入されていた。

平成12年国勢調査調査票（大都市用）

<p><b>7 5年前(平成7年10月1日)にはどこに住んでいましたか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成7年10月1日以後に生まれた人及び現在の場所に5年以上住んでいる人については記入する必要はありません</li> <li>他の区・市町村の場合は、その都道府県・市区町村名(13大都市の場合は区名まで)も書いてください</li> <li>13大都市とは 東京都区部と札幌・仙台・千葉・横浜・川崎・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・北九州・福岡の各市をいいます</li> </ul>	<p>現在と同じ場所    同じ区内の他の場所    他の区・市町村    外国</p> <p>(所在地を記入)</p> <p>都道府県 市郡支庁 区町村</p>	<p>「大都市用調査票」の選択肢 「現在と同じ場所」、 「同じ区内の他の場所」、 「他の区・市町村」、 「外国」</p> <p>「一般地域用調査票」の選択肢 「現在と同じ場所」、 「同じ市町村内の他の場所」、 「他の市区町村」、 「外国」</p>
--	---	---



平成22年国勢調査第1次試験調査調査票

<p><b>7 5年前(平成14年7月6日)にはどこに住んでいましたか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成14年7月6日以後に生まれた人及び現在の場所に5年以上住んでいる人については記入する必要はありません</li> <li>同じ区・市町村の他の場所、又は、他の区・市町村の場合は、その都道府県・市区町村名(東京都区部と政令指定都市の場合は区名まで)も書いてください(別にお配りした「調査票の記入のしかた」を参考にして書いてください)</li> <li>現在 政令指定都市に住んでいて、5年前に住んでいた場所が、現在住んでいる区以外の区である場合は、他の区・市町村に記入してください</li> </ul>	<p>現在と同じ場所    同じ区・市町村内の他の場所    他の区・市町村    外国</p> <p>(所在地を左づめで記入)</p> <p>都道府県 市郡支庁 区町村</p>	
--	---	--

「5年前の住居の所在地」のマーク一致状況

世帯記入		正しい区分					
		総数	現在と同じ場所	同じ区・市町村内の他の場所	他の区・市町村	外国	無記入・不詳
実数	総数	10825	292	4,227	5,775	274	257
	現在と同じ場所	291	289	0	2	0	0
	同じ区・市町村内の他の場所	4114	2	4,052	60	0	0
	他の区・市町村	5509	0	34	5,475	0	0
	外国	269	0	1	0	268	0
	無記入・ダブルマーク	642	1	140	238	6	257
一致率(%)		-	99.0	95.9	94.8	97.8	-

全体では一致数95.4%

## 漢字認識による市区町村コードの一致状況

第1次試験調査では、「5年前の住居の所在地」及び「従業地又は通学地」について、「都道府県」、「市郡支庁」及び「区町村」欄に記入された文字をOCR機で読み取り、読み取った内容により、市区町村コードに変換することができるかどうかについて検証した。

「5年前の住居の所在地」の「都道府県」、「市郡支庁」及び「区町村」欄について、文字認識した結果、正読率は75.0%となっている。誤読率は24.2%、不読率0.7%となっており、誤読されたもののうち、大半が他の市区町村コードに格付されている。

また、「都道府県」、「市郡支庁」、「区町村」の各欄についてみると、正読率は「都道府県」(91.4%)が最も高く、次いで「市郡支庁」(87.6%)、「区町村」(46.0%)の順となっている。「区町村」欄の正読数が著しく低いのは、過剰記入(町丁・字名の記入等)が影響していると考えられる。

なお、平成17年国勢調査第3次試験調査において、「従業地又は通学地」について、同様の検証を行っており、このときは全体の88.6%が正読されていた。

世帯記入		総数	正読数	誤読数			不読数	
				総数	他の地名等	空欄		
実数	総数	総数	28,518	21,396	6,913	6,505	408	209
		記入あり	25,406	18,288	6,909	6,504	405	209
		うち不詳	6,952	65	6,730	6,335	395	157
		記入なし	3,112	3,108	4	1	3	0
	都道府県	総数	9,506	8,691	743	740	3	72
		記入あり	9,189	8,375	742	739	3	72
		うち不詳	800	20	735	732	3	45
		記入なし	317	316	1	1	0	0
	市郡支庁	総数	9,506	8,332	1,111	893	218	63
		記入あり	8,372	7,200	1,109	893	216	63
		うち不詳	1,053	7	1,000	792	208	46
		記入なし	1,134	1,132	2	0	2	0
	区町村	総数	9,506	4,373	5,059	4,872	187	74
		記入あり	7,845	2,713	5,058	4,872	186	74
		うち不詳	5,099	38	4,995	4,811	184	66
		記入なし	1,661	1,660	1	0	1	0
構成比 (%)	総数	総数	100.0	75.0	24.2	22.8	1.4	0.7
		記入あり	100.0	72.0	27.2	25.6	1.6	0.8
		うち不詳	100.0	0.9	96.8	91.1	5.7	2.3
		記入なし	100.0	99.9	0.1	0.0	0.1	0.0
	都道府県	総数	100.0	91.4	7.8	7.8	0.0	0.8
		記入あり	100.0	91.1	8.1	8.0	0.0	0.8
		うち不詳	100.0	2.5	91.9	91.5	0.4	5.6
		記入なし	100.0	99.7	0.3	0.3	0.0	0.0
	市郡支庁	総数	100.0	87.6	11.7	9.4	2.3	0.7
		記入あり	100.0	86.0	13.2	10.7	2.6	0.8
		うち不詳	100.0	0.7	95.0	75.2	19.8	4.4
		記入なし	100.0	99.8	0.2	0.0	0.2	0.0
	区町村	総数	100.0	46.0	53.2	51.3	2.0	0.8
		記入あり	100.0	34.6	64.5	62.1	2.4	0.9
		うち不詳	100.0	0.7	98.0	94.4	3.6	1.3
		記入なし	100.0	99.9	0.1	0.0	0.1	0.0

7 「従業地又は通学地」の記入状況

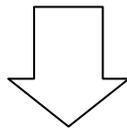
「従業地又は通学地」の区分の記入状況

国勢調査では、「5年前の住居の所在地」と同様、「従業地又は通学地」においても、政令指定都市に居住する者の「区」間の移動を正確に把握するため、これまで大都市用と一般地域用の2種類の調査票を用いている。

第1次試験調査では、調査票の統合（経費の合理化）を図る観点から、次のような選択肢であっても、政令指定都市の「区」間の移動を正確に把握することができるかについて検証したところ、14市区町全体で93.2%が正確に記入されている。

平成12年国勢調査調査票（大都市用）

<p><b>11 従業地又は通学地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事も通学もしている人は 仕事をしている場所について記入してください</li> <li>・他の区・市町村の場合は その都道府県市区町村名(13大都市の場合は区名まで)も書いてください</li> <li>・13大都市とは 東京都区部と札幌・仙台・千葉・横浜・川崎・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・北九州・福岡の各市をいいます</li> </ul>	<p>自宅(住み込みを含む) 同じ区 他の区・市町村</p> <p>13欄へ 12欄へ (所在地を記入)</p> <p>都道府県 市郡支庁 区町村</p>	<p>「大都市用調査票」の選択肢 「自宅」、「同じ区」、「他の区・市町村」</p> <p>「一般地域用調査票」の選択肢 「自宅」、「同じ市町村」、「他の市区町村」</p>
--	---	---



平成22年国勢調査第1次試験調査調査票

<p><b>11 従業地又は通学地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事も通学もしている人は 仕事をしている場所について記入してください</li> <li>・同じ区・市町村 又は 他の区・市町村の場合は その都道府県市区町村名(東京都区部と政令指定都市の場合は区名まで)も書いてください(別にお配りした「調査票の記入のしかた」を参考にして書いてください)</li> <li>・現在 政令指定都市に住んでいて 従業地又は通学地が 現在住んでいる区以外の区である場合は 他の区・市町村に記入してください</li> </ul>	<p>自宅(住み込みを含む) 同じ区・市町村 他の区・市町村</p> <p>13欄へ (所在地を左づめて記入)</p> <p>都道府県 市郡支庁 区町村</p>
--	--

「従業地又は通学地」のマーク一致状況

世帯記入		正しい区分		総数	自宅	同じ区・市町村	他の区・市町村	無記入・不詳
		一致	不一致					
実数	総数			27,467	2,111	12,675	10,484	2,197
	自宅			2,113	2,096	11	6	0
	同じ区・市町村			11,993	3	11,861	129	0
	他の区・市町村			9,687	3	87	9,597	0
	無記入・ダブルマーク			3,674	9	716	752	2,197
一致率(%)				-	99.3	93.6	91.5	-

全体では一致数93.2%

漢字認識による市区町村コードの一致状況

「従業地又は通学地」の所在地についても、「5年前の住居の所在地」と同様に文字認識した結果、正読率は74.3%となっている。誤読率は24.5%、不読率1.2%となっており、誤読されたもののうち、大半が他の市区町村コードに格付されている。

また、「都道府県」、「市郡支庁」、「区町村」の各欄についてみると、正読率は「都道府県」(86.7%)が最も高く、次いで「市郡支庁」(85.1%)、「区町村」(51.1%)の順となっている。「区町村」欄の正読数が著しく低いのは、過剰記入(町丁・字名の記入等)が影響していると考えられる。

世帯記入		総数	正読数	誤読数			不読数	
				総数	他の地名等	空欄		
実数	総数	総数	64,407	47,835	15,790	14,438	1,352	782
		記入あり	53,947	37,406	15,759	14,426	1,333	782
		うち不詳	16,048	170	15,328	14,013	1,315	550
		記入なし	10,460	10,429	31	12	19	0
	都道府県	総数	21,469	18,604	2,565	2,547	18	300
		記入あり	19,783	16,929	2,554	2,542	12	300
		うち不詳	2,750	48	2,497	2,486	11	205
		記入なし	1,686	1,675	11	5	6	0
	市郡支庁	総数	21,469	18,260	2,981	2,512	469	228
		記入あり	18,245	15,039	2,978	2,512	466	228
		うち不詳	2,906	23	2,739	2,286	453	144
		記入なし	3,224	3,221	3	0	3	0
	区町村	総数	21,469	10,971	10,244	9,379	865	254
		記入あり	15,919	5,438	10,227	9,372	855	254
		うち不詳	10,392	99	10,092	9,241	851	201
		記入なし	5,550	5,533	17	7	10	0
構成比 (%)	総数	総数	100.0	74.3	24.5	22.4	2.1	1.2
		記入あり	100.0	69.3	29.2	26.7	2.5	1.4
		うち不詳	100.0	1.1	95.5	87.3	8.2	3.4
		記入なし	100.0	99.7	0.3	0.1	0.2	0.0
	都道府県	総数	100.0	86.7	11.9	11.9	0.1	1.4
		記入あり	100.0	85.6	12.9	12.8	0.1	1.5
		うち不詳	100.0	1.7	90.8	90.4	0.4	7.5
		記入なし	100.0	99.3	0.7	0.3	0.4	0.0
	市郡支庁	総数	100.0	85.1	13.9	11.7	2.2	1.1
		記入あり	100.0	82.4	16.3	13.8	2.6	1.2
		うち不詳	100.0	0.8	94.3	78.7	15.6	5.0
		記入なし	100.0	99.9	0.1	0.0	0.1	0.0
	区町村	総数	100.0	51.1	47.7	43.7	4.0	1.2
		記入あり	100.0	34.2	64.2	58.9	5.4	1.6
		うち不詳	100.0	1.0	97.1	88.9	8.2	1.9
		記入なし	100.0	99.7	0.3	0.1	0.2	0.0

8 「住宅の床面積の合計」の記入状況

「住宅の床面積の合計」は、調査票の書き方で分かりにくいという世帯の割合が高い調査項目の一つである。

第1次試験調査では、調査票乙の「住宅の床面積の合計」を選択肢記入方式とし、その記入不備等の状況について調査票甲（平成17年国勢調査における記入方式と同じ）との比較を行った。

（調査票甲）

(5) 住宅の床面積の合計（延べ面積）

- 住宅の床面積の合計（居住室の床面積のほか 玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押し入れなどを含む）を書いてください
- 営業用の部分及び他の世帯が使っている部分は除いてください
- 小数点以下は四捨五入してください

□ □ □ □ □ 平方  
千 百 十 一 メートル

又は

〔 □ □ □ □ □ 坪 〕  
千 百 十 一

（調査票乙）

(5) 住宅の床面積の合計  
（延べ面積）

- 住宅の床面積の合計（居住室の床面積のほか 玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押し入れなどを含む）を記入してください
- 営業用の部分及び他の世帯が使っている部分は除いてください

20 ㎡	20~ 30㎡	30~ 40㎡	40~ 50㎡	50~ 60㎡	60~ 70㎡	70~ 80㎡
未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満
○	○	○	○	○	○	○
80~ 90㎡	90~ 100㎡	100~ 120㎡	120~ 150㎡	150~ 200㎡	200~ 250㎡	250㎡ 以上
未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満	未 満
○	○	○	○	○	○	○

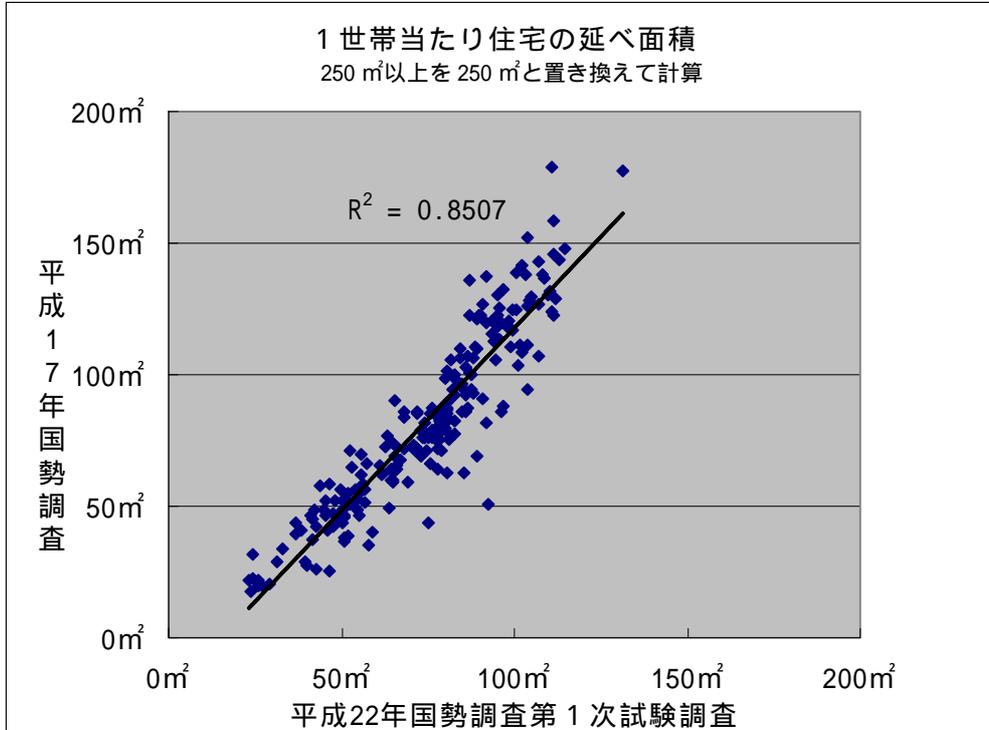
記入不備の状況については、調査票乙の方が調査票甲に比べ、正記入の割合が高くなっている。

調査票による比較（再掲）

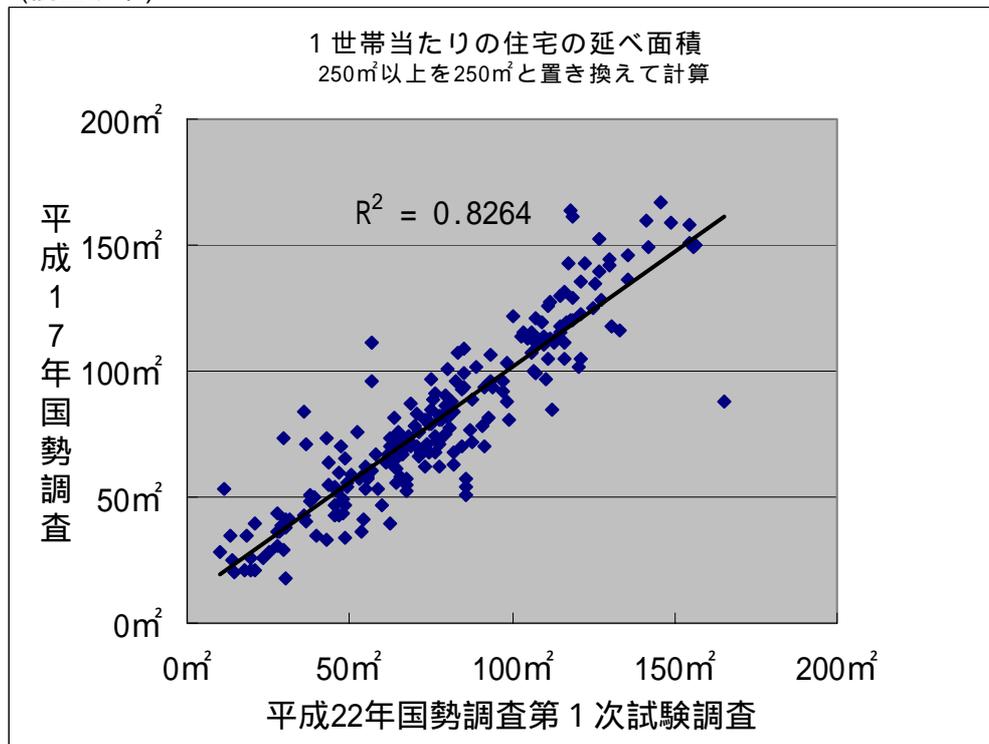
	調査票甲										調査票乙							
	総数	正記入	記入不備					補筆可	過剰記入	総数	正記入	記入不備					補筆可	過剰記入
			総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外					総数	記入漏れ	ダブルマーク	右づめ誤り	規定コード以外		
住宅の床面積の合計	100.0	83.5	16.5	10.0	6.0	0.1	0.3	1.1	0.5	100.0	91.2	8.8	8.5	0.2	-	0.0	1.1	0.5

次に、調査票乙の選択肢記入方式による記入について、平成 17 年国勢調査の基本単位区別の結果と比較することにより、世帯記入の正確性が確保されているかという観点からみると、平成 22 年国勢調査第 1 次試験調査と平成 17 年国勢調査の記入の状況は、おおむね差異はなく、正確性が確保されていると考えられる。

(調査票乙)



(調査票甲)



9 産業・職業分類の格付状況

産業大分類の世帯格付状況

調査票甲については、従来の「勤め先・業主などの名称」及び「事業の内容」について世帯が記入するほか、産業大分類についても世帯で記入することとし、調査終了後に世帯の具体的な記述内容から格付する産業大分類との一致・不一致状況を把握することとした。

産業大分類について、世帯記入と調査終了後に格付したもののとの一致率は78.9%であった。一致率が70%以下の産業大分類は、林業、漁業、卸売・小売業、不動産業、サービス業となっている。

なお、平成2年国勢調査第2次試験調査において、同様の検証を行っており、このときは全体の73.8%が正確に記入されていた。

世帯と正しい格付の産業格付比較

世帯格付	正しい格付	就業者																	分類不能	非就業者		
		総数	農業	林業	漁業	鉱業	建設	製造	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信	運輸	卸売・小売業	金融・保険	不動産	飲食店・宿泊	医療・福祉	教育・学習支援	複合サービス			サービス	公務
世帯格付	総数	11,133	329	6	8	0	731	2,120	51	346	526	1,854	309	147	531	1,174	582	128	1,438	385	456	12
実数	農業	296	268	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	16	5
	林業	5	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	漁業	8	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	鉱業	19	0	0	0	0	3	12	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	建設	689	1	0	0	0	586	12	0	0	3	8	0	3	0	1	0	1	61	2	11	0
	製造	2,167	3	0	0	0	12	1,900	0	16	12	95	0	1	6	2	0	1	98	0	21	0
	電気・ガス・熱供給・水道業	154	0	0	0	0	50	4	44	0	4	27	0	0	0	1	1	0	22	0	1	0
	情報通信	345	0	0	0	0	18	5	0	259	0	16	1	0	0	0	1	4	37	0	4	0
	運輸	451	0	0	0	0	0	5	0	0	417	4	0	0	0	0	2	0	19	0	4	0
	卸売・小売業	1,337	2	0	0	0	3	43	0	7	6	1,237	0	0	5	3	0	0	19	0	12	0
	金融・保険	310	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	289	0	0	0	0	6	8	0	4	0
	不動産	118	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	102	3	0	0	0	7	0	3	0
	飲食店・宿泊	422	0	0	0	0	0	1	0	0	0	22	0	0	389	0	0	0	7	0	3	0
	医療・福祉	1,108	0	0	0	0	0	7	0	1	1	43	0	0	0	1,006	8	1	28	6	7	0
	教育・学習支援	525	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	34	464	0	10	4	8	0
	複合サービス	130	1	0	0	0	1	0	0	5	1	7	6	0	0	1	101	7	0	0	0	0
	サービス	1,625	2	1	0	0	9	26	0	44	44	253	10	27	102	54	44	2	978	1	26	2
	公務	506	1	1	0	0	0	2	6	0	1	1	1	2	0	31	43	1	42	369	5	0
	記入なし	762	40	1	1	0	27	71	0	7	28	93	2	5	19	35	11	5	83	2	328	4
	ダブルマーク	156	9	0	2	0	15	29	1	5	8	39	0	7	7	7	7	4	11	1	3	1
一致率(%)	-	81.5	50.0	62.5	0.0	80.2	89.6	86.3	74.9	79.3	66.7	93.5	69.4	73.3	85.7	79.7	78.9	68.0	95.8	-	-	-

全体では一致率78.9%

職業大分類の世帯格付状況

調査票甲については、従来の「仕事の種類」について世帯が記入するほか、職業大分類についても世帯で記入することとし、調査終了後に世帯の具体的な記述内容から格付する職業大分類との一致・不一致状況を把握することとした。

職業大分類の格付について、世帯記入と調査終了後に格付したもののとの一致率は68.0%であった。一致率が70%以下の職業大分類は、販売従事者、サービス従事者、保安職業従事者、生産工程・労務作業者となっている。

世帯と正しい格付の職業格付比較

世帯格付	正しい格付	就業者										分類不能	非就業者
		総数	専門的・技術的職業	管理的職業	事務職	販売職	サービス職	保安職	農林漁業作業	運輸・通信職	生産工程・労務作業		
世帯格付	総数	11,133	1,877	366	2,289	1,477	1,029	129	339	339	2,742	533	13
実数	専門的・技術的職業	2,523	1,583	9	122	35	146	5	5	13	576	29	0
	管理的職業	816	57	306	171	126	38	4	1	0	104	9	0
	事務職	1,856	44	8	1,664	53	10	5	0	1	42	29	0
	販売職	1,199	3	7	60	975	38	0	0	2	99	14	1
	サービス職	1,482	104	6	154	182	676	19	1	43	241	54	2
	保安職	109	0	0	4	2	4	88	0	0	11	0	0
	農林漁業作業	322	3	0	1	2	0	287	0	7	17	5	0
	運輸・通信職	386	5	8	26	6	1	2	0	246	85	7	0
	生産工程・労務作業	1,498	12	2	29	9	37	1	6	7	1,371	24	0
	記入なし	818	54	14	48	49	69	3	33	23	176	344	5
ダブルマーク	124	12	6	10	38	10	2	6	4	30	6	0	
一致率(%)	-	84.3	83.6	72.7	66.0	65.7	68.2	84.7	72.6	50.0	-	-	

全体では一致率68.0%

## 産業・職業小分類の格付状況

世帯員各人の「勤め先・業主などの名称」を記入する調査票甲では、全体の94.5%が産業小分類を格付することができるが、世帯員各人の「勤め先・業主などの名称」を記入しない調査票乙では、全体の79.5%しか産業小分類を格付することができなかつた。

また、調査票甲では、全体の93.6%が職業小分類を格付することができるが、調査票乙では、全体の88.3%しか職業小分類を格付することができなかつた。

【調査票甲】「所属の事業所の名称」等の記入状況と産業・職業小分類格付の状況

文字記入	一致状況	総数 =a+b+c	産業小分類格付可 a	産業小分類格付不可 b			職業小分類格付可	職業小分類格付不可				非就業者 c	
				総数	産業大分類及び中分類の格付可	産業大分類のみ格付可		分類不能	総数	職業大分類及び中分類の格付可	職業大分類のみ格付可		分類不能
総数		11,133	10,523	598	60	82	456	10,418	703	87	83	533	12
実数	所属の事業所の名称欄のみ記入（調査票甲のみ）	98	77	21	1	3	17	45	53	1	2	50	0
	事業の内容欄のみ記入	21	13	7	0	3	4	12	8	1	0	7	1
	仕事の内容欄のみ記入	140	104	33	7	4	22	126	11	4	0	7	3
	所属の事業所の名称欄・事業の内容欄記入（調査票甲のみ）	256	249	6	2	3	1	188	67	7	10	50	1
	所属の事業所の名称欄・仕事の内容欄記入（調査票甲のみ）	243	223	19	3	7	9	229	13	5	5	3	1
	事業の内容欄・仕事の内容欄記入	168	150	18	3	9	6	155	13	5	4	4	0
	すべて記入あり	9,812	9,691	118	44	53	21	9,650	159	64	61	34	3
	すべて記入なし	395	16	376	0	0	376	13	379	0	1	378	3
構成比（%）	総数	100.0	94.5	5.4	0.5	0.7	4.1	93.6	6.3	0.8	0.7	4.8	0.1
	所属の事業所の名称欄のみ記入（調査票甲のみ）	100.0	78.6	21.4	1.0	3.1	17.3	45.9	54.1	1.0	2.0	51.0	0.0
	事業の内容欄のみ記入	100.0	61.9	33.3	0.0	14.3	19.0	57.1	38.1	4.8	0.0	33.3	4.8
	仕事の内容欄のみ記入	100.0	74.3	23.6	5.0	2.9	15.7	90.0	7.9	2.9	0.0	5.0	2.1
	所属の事業所の名称欄・事業の内容欄記入（調査票甲のみ）	100.0	97.3	2.3	0.8	1.2	0.4	73.4	26.2	2.7	3.9	19.5	0.4
	所属の事業所の名称欄・仕事の内容欄記入（調査票甲のみ）	100.0	91.8	7.8	1.2	2.9	3.7	94.2	5.3	2.1	2.1	1.2	0.4
	事業の内容欄・仕事の内容欄記入	100.0	89.3	10.7	1.8	5.4	3.6	92.3	7.7	3.0	2.4	2.4	0.0
	すべて記入あり	100.0	98.8	1.2	0.4	0.5	0.2	98.3	1.6	0.7	0.6	0.3	0.0
すべて記入なし	100.0	4.1	95.2	0.0	0.0	95.2	3.3	95.9	0.0	0.3	95.7	0.8	

【調査票乙】「所属の事業所の名称」等の記入状況と産業・職業小分類格付の状況

文字記入	一致状況	総数 =a+b+c	産業小分類格付可 a	産業小分類格付不可 b			職業小分類格付可	職業小分類格付不可				非就業者 c	
				総数	産業大分類及び中分類の格付可	産業大分類のみ格付可		分類不能	総数	職業大分類及び中分類の格付可	職業大分類のみ格付可		分類不能
総数		10,845	8,619	2,200	400	1,006	794	9,573	1,246	259	386	601	26
実数	事業の内容欄のみ記入	177	121	54	6	21	27	93	82	5	10	67	2
	仕事の内容欄のみ記入	162	106	51	2	6	43	126	31	4	7	20	5
	事業の内容欄・仕事の内容欄記入	10,069	8,367	1,693	391	979	323	9,329	731	250	368	113	9
	すべて記入あり	10,069	8,367	1,693	391	979	323	9,329	731	250	368	113	9
	すべて記入なし	437	25	402	1	0	401	25	402	0	1	401	10
	構成比（%）	総数	100.0	79.5	20.3	3.7	9.3	7.3	88.3	11.5	2.4	3.6	5.5
事業の内容欄のみ記入		100.0	68.4	30.5	3.4	11.9	15.3	52.5	46.3	2.8	5.6	37.9	1.1
仕事の内容欄のみ記入		100.0	65.4	31.5	1.2	3.7	26.5	77.8	19.1	2.5	4.3	12.3	3.1
事業の内容欄・仕事の内容欄記入		100.0	83.1	16.8	3.9	9.7	3.2	92.7	7.3	2.5	3.7	1.1	0.1
すべて記入あり		100.0	83.1	16.8	3.9	9.7	3.2	92.7	7.3	2.5	3.7	1.1	0.1
すべて記入なし		100.0	5.7	92.0	0.2	0.0	91.8	5.7	92.0	0.0	0.2	91.8	2.3

## 記録表の取りまとめ結果

### 第1 調査員記録表の取りまとめ結果

#### 1 担当調査区数について

##### (1) 2調査区担当地域

担当した調査区数の適否については、「適切だった」の割合（58.3%）が高くなっている。

調査方法別、国勢調査経験別にみても、「適切だった」の割合が高くなっているが、地域特性別にみると「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」で、「適切ではなかった」の割合が高くなっている。

表1-1 担当調査区数の適否（2調査区担当地域）

	調査員数	構成比（%）			
		適切だった	適切ではなかった	不詳	
総数	96	58.3	38.5	3.1	
調査方法	調査票配布期間延長型	48	58.3	39.6	2.1
	調査票配布期間従来型	48	58.3	37.5	4.2
地域特性	調査困難地域				
	オートロックマンション	48	68.8	29.2	2.1
	単身者が居住する住宅の多い地域	24	33.3	62.5	4.2
	外国人の多い地域	24	62.5	33.3	4.2
国調経験	国勢調査員の経験あり	61	57.4	37.7	4.9
	国勢調査員の経験なし	35	60.0	40.0	-

##### (2) 4調査区担当地域

担当した調査区数の適否については、「適切ではなかった」の割合（60.3%）が高くなっている。

調査方法別にみると、「適切ではなかった」の割合が高くなっているが、地域特性別にみると「一戸建の多い地域」で、また、国勢調査経験別にみると「国勢調査員経験なし」で、それぞれ「適切だった」の割合が高くなっている。

表1-2 担当調査区数の適否（4調査区担当地域）

	調査員数	構成比（%）			
		適切だった	適切ではなかった	不詳	
総数	63	34.9	60.3	4.8	
調査方法	調査票配布期間延長型	32	34.4	59.4	6.3
	調査票配布期間従来型	31	35.5	61.3	3.2
地域特性	一般地域				
	一戸建の多い地域	31	48.4	45.2	6.5
	共同住宅の多い地域	32	21.9	75.0	3.1
国調経験	国勢調査員の経験あり	42	26.2	66.7	7.1
	国勢調査員の経験なし	21	52.4	47.6	-

## 2 世帯訪問の状況

### (1) 調査票配布期間延長型

調査票配布期間延長型（配布期間15日間）における調査員の1世帯当たりの平均訪問回数をみると、調査票配布時が2.7回、調査票未提出世帯からの調査票の回収（以下「フォローアップ回収」という。）時が3.1回となっている。

これを地域特性別にみると、調査票配布時については、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」が4.0回と最も多くなっており、5回以上訪問した世帯の割合が30%を超えている。また、フォローアップ回収時についても、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」は、「建物1棟でいくつかの調査区を構成しているオートロックマンション」と並び3.2回で最も多くなっており、5回以上訪問した世帯の割合が25%を超えている。

表2 - 1 調査員の世帯訪問状況（調査票配布期間延長型）

	調査票配布時							フォローアップ回収時							
	世帯数	訪問回数別世帯数（構成比：％）					1世帯当たり平均訪問回数	世帯数	訪問回数別世帯数（構成比：％）					1世帯当たり平均訪問回数	
		1回	2回	3回	4回	5回以上			1回	2回	3回	4回	5回以上		
総数	11,732	39.1	22.7	14.3	8.8	15.1	2.7	3,966	22.4	22.7	27.2	10.6	17.0	3.1	
地域特性	調査困難地域	5,107	26.0	22.5	16.4	12.8	22.3	3.3	2,102	23.2	22.9	26.6	6.6	20.6	3.2
	オートロックマンション	2,273	34.2	21.0	14.7	10.2	19.8	3.3	755	22.8	25.2	27.0	9.8	15.2	3.2
	単身者が居住する住宅の多い地域	1,514	11.3	23.5	16.2	14.4	34.6	4.0	1,018	29.0	18.3	25.1	2.2	25.4	3.2
	外国人の多い地域	1,320	28.8	23.9	19.5	15.5	12.3	2.7	329	6.4	31.9	30.4	13.1	18.2	3.1
	一般地域	6,625	49.3	22.8	12.6	5.8	9.5	2.2	1,864	21.5	22.5	27.9	15.2	13.0	2.9
	一戸建の多い地域	3,094	58.9	24.1	7.7	4.2	5.1	1.8	567	18.0	32.6	25.7	14.5	9.2	2.7
	共同住宅の多い地域	3,531	40.8	21.7	16.9	7.2	13.4	2.5	1,297	23.0	18.0	28.8	15.5	14.6	3.0

## (2) 調査票配布期間従来型

調査票配布期間従来型（配布期間 8 日間）における調査員の 1 世帯当たりの平均訪問回数をみると、調査票配布時が 2.4 回、フォローアップ回収時が 3.4 回となっている。なお、調査票配布期間従来型においては、調査票配布時に 3 回訪問しても世帯と面接できなかつた場合は、郵便受けに入れるなどして配布することとしたが、4 回以上訪問した世帯の割合が 15% を超えている。

これを地域特性別にみると、調査票配布時については、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」が 3.5 回と最も多くなっている。また、フォローアップ回収時については、「建物 1 棟でいくつかの調査区を構成しているオートロックマンション」が 3.9 回と最も多くなっており、5 回以上訪問した世帯の割合が 30% を超えている。

表 2 - 2 調査員の世帯訪問状況（調査票配布期間従来型）

	調査票配布時							フォローアップ回収時							
	世帯数	訪問回数別世帯数（構成比：％）					1世帯当たり平均訪問回数	世帯数	訪問回数別世帯数（構成比：％）					1世帯当たり平均訪問回数	
		1回	2回	3回	4回	5回以上			1回	2回	3回	4回	5回以上		
総数	12,049	35.1	24.7	24.5	9.3	6.3	2.4	4,019	19.6	17.0	26.3	13.9	23.2	3.4	
地域特性	調査困難地域	5,129	24.1	23.5	26.2	14.4	11.8	3.0	1,951	12.8	13.6	31.5	18.5	23.7	3.6
	オートロックマンション	2,429	28.5	26.8	23.8	12.4	8.6	2.5	683	9.5	13.9	33.1	13.0	30.5	3.9
	単身者が居住する住宅の多い地域	1,424	14.3	14.2	36.1	21.3	14.1	3.5	863	13.7	9.0	32.1	23.3	21.9	3.7
	外国人の多い地域	1,276	26.8	27.7	19.8	10.4	15.3	3.3	405	16.3	22.7	27.4	17.3	16.3	3.0
	一般地域	6,920	43.2	25.7	23.3	5.5	2.3	2.0	2,068	26.1	20.2	21.4	9.7	22.7	3.2
	一戸建の多い地域	3,416	54.0	28.8	14.0	2.0	1.2	1.7	842	35.3	27.4	15.7	8.7	12.9	2.7
共同住宅の多い地域	3,504	32.8	22.6	32.4	8.9	3.3	2.3	1,226	19.7	15.2	25.4	10.4	29.4	3.5	

注）調査票配布時の世帯の訪問回数に上限（3回）を設定して実施

### 3 『世帯名簿』作成時の世帯からの質問・意見の状況

調査員が世帯主又は代表者の姓と住所を世帯から聴取して、『世帯名簿』を作成することについて、世帯から質問があった調査区の割合は17.2%となっている。

これを地域特性別にみると、世帯から質問があった割合が最も高いのは、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」(27.1%)、次いで、「外国人の多い地域」(22.9%)、「共同住宅の多い地域」(22.7%)となっている。

また、1調査区における質問のあった世帯数は、「1～5世帯」の割合が高くなっている。

表3 『世帯名簿』作成時の世帯からの質問の有無

	調査区数	構成比(%)							不詳	
		質問なし	質問あり	質問のあった世帯数別割合(%)						
				総数	1～5世帯	6～10世帯	11世帯以上	不詳		
総数	448	80.1	17.2	100.0	62.3	9.1	10.4	18.2	2.7	
地域特性	調査困難地域	192	79.7	17.2	100.0	54.5	3.0	-	42.4	3.1
	オートロックマンション	96	87.5	9.4	100.0	33.3	-	-	66.7	3.1
	単身者が居住する住宅の多い地域	48	68.8	27.1	100.0	53.8	-	-	46.2	4.2
	外国人の多い地域	48	75.0	22.9	100.0	72.7	9.1	-	18.2	2.1
	一般地域	256	80.5	17.2	100.0	68.2	13.6	18.2	-	2.3
	一戸建の多い地域	128	84.4	11.7	100.0	86.7	13.3	-	-	3.9
	共同住宅の多い地域	128	76.6	22.7	100.0	58.6	13.8	27.6	-	0.8

#### 【主な質問・意見】

- ・ 個人情報保護のため、聴取には協力できない。
- ・ 市町村から来たのであれば、住民票などを使えば、氏名や住所は把握できるはずではないか。
- ・ なぜ、『世帯名簿』を作成するのか。
- ・ オートロックマンションでは、エントランスのインターホンからの聴取になることが多く、そこでの姓の確認は世帯に不信に思われる例が多かった。

### 4 『世帯名簿』のシールの貼付について

調査員が、『調査票提出用封筒』や『調査票の記入のしかた』に、『世帯名簿』のシールを貼付することについては、74.8%の調査員が気づいた点があるとしており、多くの調査員から意見があった。

表4 『世帯名簿』のシールの貼付について気づいた点の有無

	総数	気づいた点なし	気づいた点あり	不詳
実数	163	33	122	8
構成比(%)	100.0	20.2	74.8	4.9

#### 【主な意見】

- ・ シールがはがしづらい。
- ・ 調査票配布時にシールを貼付するのは困難である。

- ・ 『調査票の記入のしかた』に貼付する照会番号シールは不要ではないか。
- ・ 世帯への配布時に、シールの貼付誤りがないか確認するのに気を遣う。
- ・ 『調査票の記入のしかた』に照会番号シールを貼付するのは、表紙又は裏表紙がよい。
- ・ 世帯では調査票の記入が終了すると、『調査票の記入のしかた』は廃棄してしまうので、保管を明記したほうがよい。

## 5 世帯の居住確認の状況

調査員が、居住状況を確認するのが困難な世帯があった調査区の割合は72.3%となっている。

これを地域特性別にみると、割合が最も高いのは、「外国人の多い地域」(81.3%)次いで、「共同住宅が多い地域」(78.9%)、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」(72.9%)となっている。

また、1調査区における居住確認が難しかった世帯数は、「1～5世帯」の割合が高くなっている。

表5 世帯の居住確認の状況

	調査区数	構成比(%)								不詳	
		困難なし	困難あり	居住確認が難しかった世帯数別割合(%)					不詳		
				総数	1～5世帯	6～10世帯	11～19世帯	20世帯以上			
総数	448	23.4	72.3	100.0	54.0	11.1	6.2	4.9	5.9	4.2	
地域特性	調査困難地域	192	27.6	69.8	100.0	44.0	10.4	7.5	8.2	3.7	2.6
	オートロックマンション	96	36.5	62.5	100.0	45.0	6.7	6.7	6.7	1.7	1.0
	単身者が居住する住宅の多い地域	48	22.9	72.9	100.0	42.9	11.4	2.9	14.3	5.7	4.2
	外国人の多い地域	48	14.6	81.3	100.0	43.6	15.4	12.8	5.1	5.1	4.2
	一般地域	256	20.3	74.2	100.0	61.1	11.6	5.3	2.6	7.4	5.5
	一戸建の多い地域	128	23.4	69.5	100.0	71.9	4.5	2.2	2.2	10.1	7.0
	共同住宅の多い地域	128	17.2	78.9	100.0	51.5	17.8	7.9	3.0	5.0	3.9

### 【居住確認が困難だった主な例】

- ・ 郵便受けがチラシなどで溢れている住宅。
- ・ 何度訪問しても、まったく人の気配がしない住宅。
- ・ セカンドハウス、事務所、倉庫として使用されている住宅。
- ・ アパートやマンション等で、玄関や集合ポストに表札がない住宅。

### 【居住確認のための主な対応方法】

- ・ 電気メータ・ガスメータの確認、郵便受けの使用状況、カーテン・洗濯物・自動車の有無の確認。
- ・ 近隣からの聴取。
- ・ 管理人への居住状況の確認。
- ・ 管理会社や不動産会社への居住状況の確認。

## 6 調査員への調査票の提出状況

調査員が世帯から調査票を受け取りに来てほしいとの申し出を受けた調査区の割合は16.3%となっている。

これを地域特性別にみると、割合が最も高いのは、「一戸建の多い地域」(23.4%)次いで、「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」(20.8%)となっている。

また、調査員の認知度別にみると、調査員が担当地域の世帯をよく知っている調査区ほど、調査員への提出の申し出を受けた割合が高くなっている。

表6 調査員への調査票提出の申し出の状況

		調査区数	申し出 あり	割合 (%)
総 数		448	73	16.3
地域 特 性	調査困難地域	192	26	13.5
	オートロックマンション	96	12	12.5
	単身者が居住する住宅の多い地域	48	10	20.8
	外国人の多い地域	48	4	8.3
	一般地域	256	47	18.4
	一戸建の多い地域	128	30	23.4
	共同住宅の多い地域	128	17	13.3
認 知 度	担当地域をよく知っていた	174	22	12.6
	担当地域を多少知っていた	187	37	19.8
	担当地域をほとんど知らなかった	80	14	17.5
	担当地域の世帯をよく知っていた	57	12	21.1
	担当地域の世帯を多少知っていた	102	18	17.6
	担当地域の世帯をほとんど知らなかった	279	43	15.4

### 【申し出のあった主な理由】

(主として高齢者の世帯から)

- ・ 調査票の読み書きが難しいため、代わりに記入してほしい。
- ・ 直接、記入のしかたを教えてほしい。
- ・ 高齢のためポストまで出かけることが難しい。

(高齢者以外の世帯から)

- ・ 身体が不自由なためポストまで出かけることが難しい。
- ・ 多忙などポストに行くのが面倒。

## 7 フォローアップ回収の状況

フォローアップ回収について、調査員が何らかの困難を感じた調査区の割合は89.3%となっている。その理由としては、「不在の世帯が多く、何度も訪問しなければならなかった」(85.5%)の割合が高くなっている。

なお、これを調査員の認知度でみると、調査員が「担当地域の世帯をよく知っていた」調査区では、困難は「なかった」の割合が31.6%と比較的高くなっている。

表7 フォローアップ回収の状況

	調査区数	構成比(%)								不詳
		困難なし	困難あり	困難の理由別割合(複数回答)						
				総数	不在の世帯が多く、何度も訪問しなければならなかった	調査への協力が得られない世帯への説得に苦労した	何度も督促しなければ、調査票に記入できなかった	オートロックマンションのため、建物の中に入らなかったり、世帯の人に会えなかったりした	その他*)	
総数	448	6.7	89.3	100.0	85.5	28.5	27.0	24.3	18.0	4.0
調査困難地域	192	3.6	94.3	100.0	90.6	20.4	27.1	34.8	17.1	2.1
地域特性										
オートロックマンション	96	4.2	94.8	100.0	87.9	14.3	27.5	37.4	14.3	1.0
単身者が居住する住宅の多い地域	48	2.1	93.8	100.0	93.3	28.9	17.8	35.6	20.0	4.2
外国人の多い地域	48	4.2	93.8	100.0	93.3	24.4	35.6	28.9	20.0	2.1
一般地域	256	9.0	85.5	100.0	81.3	35.2	26.9	15.5	18.7	5.5
一戸建の多い地域	128	13.3	76.6	100.0	65.3	35.7	25.5	5.1	18.4	10.2
共同住宅の多い地域	128	4.7	94.5	100.0	94.2	34.7	28.1	24.0	19.0	0.8
認知度										
担当地域をよく知っていた	174	12.6	85.6	100.0	86.6	24.2	26.2	28.2	16.8	1.7
担当地域を多少知っていた	187	2.7	94.7	100.0	87.0	31.6	21.5	24.9	21.5	2.7
担当地域をほとんど知らなかった	80	3.8	86.3	100.0	79.7	30.4	44.9	14.5	13.0	10.0
担当地域の世帯をよく知っていた	57	31.6	66.7	100.0	89.5	21.1	28.9	34.2	5.3	1.8
担当地域の世帯を多少知っていた	102	2.0	96.1	100.0	82.7	33.7	28.6	27.6	15.3	2.0
担当地域の世帯をほとんど知らなかった	279	3.2	92.1	100.0	86.4	28.0	26.5	22.2	20.2	4.7

注)「困難の理由」は複数回答のため、必ずしも内訳の合計とは一致しない。

### \* ) その他の主な内容

- ・ 居留守。
- ・ 試験調査であることなどを理由にした非協力。
- ・ 学生や若年世帯を中心とした無関心。
- ・ 面接時に「後で郵送しておく」と言われ、その後の督促のための訪問が困難。

## 第2 調査状況等記録表の取りまとめ結果

### 1 調査票の受付状況について

世帯から郵送提出された調査票の受付状況を日別にみると、市区町で受け付けた調査票が最も多かったのは、7月9日（月）の2,296件（郵送提出世帯数に占める割合14.6%）で、次いで17日（火）の2,031件（同12.9%）、13日（金）の1,961件（同12.5%）となっている。この3日の件数は、いずれも郵送提出期日である7月12日（木）の件数（1,913件、12.2%）を上回っており、世帯の調査票提出行動には、郵送提出期日のほか、休日などの曜日が大きく影響していることが考えられる。

7月16日（月）は海の日による祝日

図1 日別の調査票の受付状況

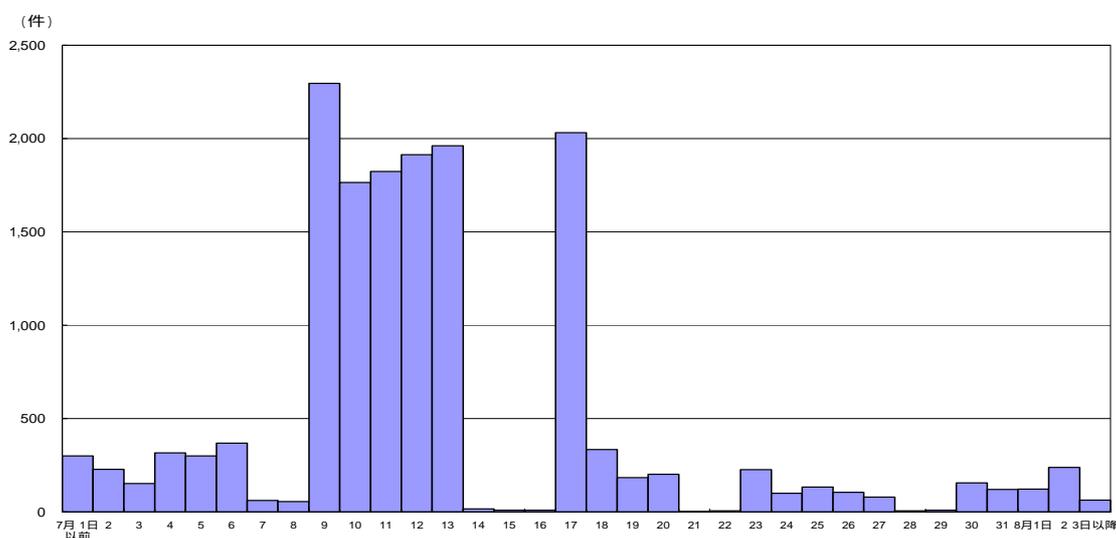


表1 日別の調査票の受付状況

	総数	調査日											
		7月1日以前	2月	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日
実数	15,691	300	228	152	316	300	368	61	56	2,296	1,765	1,824	1,913
構成比	100.0	1.9	1.5	1.0	2.0	1.9	2.3	0.4	0.4	14.6	11.2	11.6	12.2
調査事務日程		調査票配布					世帯からの郵送提出、調査員による回収期間						

	調査日																
	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日
実数	1,961	16	9	9	2,031	334	184	202	2	6	227	100	133	105	79	6	9
構成比	12.5	0.1	0.1	0.1	12.9	2.1	1.2	1.3	0.0	0.0	1.4	0.6	0.8	0.7	0.5	0.0	0.1
調査事務日程	調査票未提出世帯の特定等					調査票未提出世帯からの回収期間											

	30日	31日	8月1日	2日	3日以降
	月	火	水	木	
実数	156	120	122	238	63
構成比	1.0	0.8	0.8	1.5	0.4
調査事務日程					

## 2 世帯名簿の受付事務

### (1) 世帯名簿の受付に要した事務量

市区町が、調査員から提出された『世帯名簿』の受付及び複写に要した延べ人員は、14市区町の平均で2.3人日となっている。

日別にみると、調査員への提出を希望する世帯から調査票を回収する期限となっている7月12日以降が0.7人日で最も多くなっており、次いで調査期日（7月6日）以降で最初の週明けとなる9日が0.6人日となっている。

また、『世帯名簿』（副本）の調査区番号及び世帯名簿番号を「調査票受付状況管理システム」に入力するために要した延べ人員は、14市区町の平均で1.2人日となっている。

表2 世帯名簿等の受付に要した事務量

(単位：人日)

	世帯名簿の受付及び複写に要した延べ人員								「管理システム」の入力に要した人員
	7月6日 (金)	7日 (土)	8日 (日)	9日 (月)	10日 (火)	11日 (水)	12日以降	計	
平均人員	0.2	0.2	0.1	0.6	0.4	0.2	0.7	2.3	1.2

### (2) 世帯名簿の受付事務についての意見・提案

- ・ 本調査を考慮すると事務負担が大きい。
- ・ 記入欄を含め、『世帯名簿』全面がシール印刷だったため、自動用紙送りによる複写を行うことができず、時間を要した。
- ・ 調査区番号と世帯名簿番号との対応付けを、調査員に『世帯名簿』を配布する前に、あらかじめ行えるようにしてほしい。
- ・ 市区町村における事務負担を考慮して、『世帯名簿』を複写式の様式としてどうか。
- ・ 世帯名簿番号のバーコードの位置が、世帯配布用のバーコードの位置と近かったため、誤って読み取ってしまった。

## 3 調査票の受付事務

### (1) 『調査票提出用封筒』のバーコードの読み取りに要した事務量

世帯から提出された『調査票提出用封筒』に貼付されているバーコードの読み取りに要した延べ人員は、14市区町の平均で1.4人日となっている。

これを延べ人員別にみると、1人日未満であった市区町が最も多くなっている（7市区町）。

表3 - 1 『調査票提出用封筒』のバーコードの読み取りに要した事務量

バーコードの読み取りに要した延べ人員	1人日未満	1人日～2人日未満	2人以上	14市区町平均
市区町数	7	3	4	1.4人日

(2) 『調査票提出用封筒』のバーコードの貼付状況

ア バーコードが貼付されていなかった件数

世帯から提出された『調査票提出用封筒』にバーコードが貼付されていなかった件数をみると、14市区町の総数で52件となっており、調査票提出世帯に占める割合（未貼付率）は0.28%となっている。

これを未貼付の件数別にみると、2市区町で10件以上となっている。一方、未貼付がなかったのは4市区町となっている。

なお、バーコードが未貼付の事例として、調査員の貼付漏れのほか、世帯が剥がして提出している場合もあると報告されている。

表3 - 2 『調査票提出用封筒』へのバーコードの未貼付の状況

未貼付件数	未貼付なし	1～4件	5～9件	10件以上	未貼付件数 総数	未貼付率
市区町数	4	5	3	2	52件	0.28%

イ 誤って別の世帯のバーコードが貼付されていた件数

世帯から提出された『調査票提出用封筒』に、誤って別の世帯のバーコードが貼付されていた件数をみると、14市区町の総数で67件となっており、調査票提出世帯に占める割合（誤貼付率）は0.36%となっている。

これを貼付誤りの件数別にみると、3市区町で10件以上となっている。一方、貼付誤りがなかったのは4市区町となっている。

表3 - 3 『調査票提出用封筒』へのバーコードの誤貼付の状況

誤貼付件数	誤貼付なし	1～4件	5～9件	10件以上	誤貼付件数 総数	誤貼付率
市区町数	4	7	0	3	67件	0.36%

ウ バーコードの読み取りに支障を来たした事象

上記のア、イによるもののほか、バーコードの読み取りに支障を来たした事象として、以下のとおり報告されている。

- ・ 『調査票提出用封筒』に貼付されたバーコードの破れ、しわによって、読み取りが行えない事例があった。
- ・ 『調査票提出用封筒』にバーコードではなく、照会番号シールが貼付されていた。
- ・ 2世帯住宅で、それぞれの世帯に対して『調査票提出用封筒』を配布したにもかかわらず、ひとつの封筒で提出されてきた。
- ・ 読み取りの作業中に、パソコンのフリーズなどにより、データの保存ができないことがあった。
- ・ 読み取り漏れが生じた場合、どの『調査票提出用封筒』を読み取っていないのか特定するのに時間がかかる。

### (3) 調査票受付事務についての意見・提案

- ・ バーコードの読み取り漏れ、貼付誤り、『調査票提出用封筒』の配布誤りが生じた場合の対応が困難。
- ・ 本調査を考慮すると、作業スペースの確保、適正な台数のバーコードリーダーの措置など工夫が必要。
- ・ 事務が煩雑で本調査での対応は困難。調査票をOCRに入力し、受付管理するシステムを導入すべき。
- ・ 調査票又は『調査票提出用封筒』へのバーコードのプレプリント。
- ・ バーコードの読み取り漏れを防止するために、『調査票提出用封筒』の枚数と「調査票受付状況管理システム」に登録された件数とを常に確認しながら、調査票の受付を行った。
- ・ 調査票受付事務の効率化に資する「調査票受付状況管理システム」の改善。
 

パーコードの重複読み込みを行えないシステムにしてほしい。 登録画面に市区町村において自由に入力が行える「備考欄」の設計。
---

## 4 『調査票提出用封筒』の開封状況

### (1) 『調査票提出用封筒』の開封に要した事務量

世帯から提出された『調査票提出用封筒』の開封に要した延べ人員をみると、14市区町の平均で2.9人日となっている。

表4 - 1 『調査票提出用封筒』の開封に要した事務量

『調査票提出用封筒』の開封に要した延べ人員	2人日未満	2人日～4人日未満	4人日以上	14市区町平均
市区町数	4	5	5	2.9人日

### (2) 調査票の調査区番号・世帯番号の記入状況

調査票の調査区番号と世帯番号の記入漏れの件数をみると、調査区番号は715件、世帯番号は734件となっており、調査票提出世帯に占める割合（記入漏れ率）は、それぞれ3.8%、3.9%となっている。

これを記入漏れの件数別にみると、多くの市区町で50件未満となっている。一方、3市区町では100件以上となっている。

なお、郵送提出された『調査票提出用封筒』の裏面の「住所」欄に、世帯の住所が記入されている割合は、14市区町の平均で93.0%となっている。

表4 - 2 調査票への調査区番号、世帯番号の記入状況

	市区町数					記入漏れ総数	記入漏れ率
	記入漏れなし	1～9件	10～49件	50～99件	100件以上		
調査区番号	1	5	5	-	3	715件	3.8%
世帯番号	1	5	4	1	3	734件	3.9%

### (3) 調査票の世帯番号の重複記入の状況

調査票を整理した際に、調査票に記入された世帯番号が重複していた件数をみると、14市区町の総数で46件となっており、調査票提出世帯に占める割合（重複記入率）は0.25%となっている。

これを重複記入の件数別にみると、2市区町で10件以上となっている。一方、重複記入がなかったのは4市区町となっている。

表4 - 3 世帯番号の重複記入の状況

世帯番号の 重複記入件数	重複なし	1～4件	5～9件	10件以上	重複記入 件数総数	重複記入率
市区町数	4	6	2	2	46件	0.25%

### (4) 『調査票提出用封筒』の開封についての意見・提案

- ・ バーコードの貼付誤り等が考えられるため、開封後の『調査票提出用封筒』の管理も必要。
- ・ 大量の『調査票提出用封筒』を開封するためには開封機が必要。
- ・ 本調査を考慮すると、作業のための十分な要員とスペースが必要。

## 5 調査員への調査票未提出世帯の指示状況

### (1) 調査員に対して調査票未提出世帯の指示を行うまでに要した事務量

「受付状況確認リスト」に基づき、調査票未提出世帯を特定し、調査員に対し、調査票未提出世帯からの調査票の回収（以下「フォローアップ回収」という。）について1回目の指示を行うまでに要した延べ人員をみると、14市区町の平均で2.8人日となっている。

日別にみると、フォローアップ回収が始まる直前の7月17日以降が1.4人日で最も多くなっている。

表5 - 1 調査票未提出世帯の指示までに要した事務量

(単位：人日)

	7月12日 以前	13日 (金)	14日 (土)	15日 (日)	16日 (月)	17日以降	計
平均人員	0.3	0.5	0.2	0.2	0.2	1.4	2.8

## (2) フォローアップ回収期間中における調査票受付状況の調査員への連絡

フォローアップ回収期間中に世帯から市区町に調査票が提出された場合の調査員への連絡については、多くの市区町が毎日行っている。

調査員への連絡には、すべての市区町が電話を用いているが、FAXや電子メールを用いた市区町もある。

表5-2 フォローアップ期間中の調査員への連絡状況

	連絡頻度			連絡方法			
	毎日	随時	2～3日おき	電話のみ	電話とFAX	電話と郵便	電話、FAX、電子メール
市区町数	10	2	2	10	2	1	1

## (3) 調査員への調査票未提出世帯の指示についての意見・提案

- 調査員にフォローアップ対象世帯を指示する方法については、本調査での事務量を考慮すると、電話以外による方法を検討する必要がある。

調査票受付状況管理システムに、調査員の住所・氏名を入力することで、調査員の住所・氏名を印字した未提出世帯のリストを作成する機能を追加し、これを窓あき封筒で送付する。

自動音声による電話、FAX、電子メールを活用して、自動的に調査員にフォローアップ対象世帯を通知するシステム。

最新の調査票提出状況を案内するコールセンターを設置し、調査員が直接問い合わせる方式。

効率的に調査員にフォローアップ対象世帯を通知する方法が必要だが、一方で誤りなく伝えるためには世帯名簿番号と行番号のみで指示するのではなく、世帯番号、世帯主の姓を伝えることも重要。

- 調査票を遅れて提出する世帯があること、調査員との行き違いのトラブルなどを考慮して、調査票郵送提出期限からフォローアップ対象世帯の指示までには、十分な期間をとる必要がある。
- フォローアップ対象世帯から、既に調査票を提出したと言われた場合の確認を行うためには、調査票だけでなく『調査票提出用封筒』を保存しておく必要がある。
- 『世帯名簿』の行番号によるフォローアップ対象世帯の特定は分かりにくい。(特に、2枚目以降の『世帯名簿』)
- バーコード(照会番号)の番号の下2桁は、『世帯名簿』の行番号と一致していたほうがよい。
- フォローアップ対象世帯の特定を効率的に行うための「調査票受付状況管理システム」の改善。

単位区の何枚目の『世帯名簿』か、使用している行数を入力することで、調査票未提出世帯のリストを作成する際に、未使用の行番号が印刷されないようにする。

未提出世帯の印刷画面プレビュー時に、全世帯提出済の世帯名簿が表示されないため、入力漏れか全世帯提出済かの判断ができない。

## 6 調査書類の審査状況

### (1) 調査書類の審査に要した事務量

調査書類の審査に要した延べ人員は、14市区町の平均で18.1人日となっている。  
これを延べ人員別にみると、20人日～30人日未満であった市区町が最も多くなっている（5市区町）。

表6 調査書類の審査に要した事務量

調査書類の審査に要した延べ人員	5人日未満	5人日～10人日未満	10人日～20人日未満	20人日～30人日未満	30人日以上	14市区町平均
市区町数	1	4	2	5	2	18.1人日

### (2) 調査書類の審査についての意見・提案

- ・ 今回の郵送提出（全世帯封入）を原則とした調査方法では、調査員による検査が行われないため、記入不備が多く、市区町村の事務量は増大する。
- ・ 世帯への電話照会を職員だけで行うのは非効率であるため、指導員や非常勤職員でも電話照会を行えるようにしてほしい。

## 7 今回の試験調査の調査方法等についての意見・提案

### (1) 調査票の郵送提出について

- ・ 郵送にはタイムラグがあるため、フォローアップ回収のために調査員が訪問した際に、行き違いによるトラブルが懸念される。
- ・ 記入した調査票を自宅の郵便受けに入れておくものと勘違いした世帯があった。
- ・ フォローアップ回収時に、「後で郵送しておく」と言われてしまうと、それ以上の督促が困難である。
- ・ 世帯は「既に調査票を郵送した」と言っているにもかかわらず、市区町村に調査票が提出されていない場合、どのように対応すればよいか。

### (2) 調査員事務について

- ・ 担当する世帯数、持ち運びする調査書類の量、調査活動の範囲等を考慮すると、1調査員2調査区担当が限度である。
- ・ 1調査員4調査区担当は、調査員の負担が大きすぎる。
- ・ 1調査員1調査区担当を基本としつつ、調査員の能力、調査区の実情などを考慮して複数調査区を担当するなど、柔軟な配置を可能とする方法を検討してほしい。
- ・ 調査票配布期間は従来型（8日間）がよい。
- ・ 世帯の訪問回数に上限を設けたほうがよい。

(3) 市区町村事務（指導員事務との役割分担を含む）について

- ・ 『調査票提出用封筒』の印刷は国が行うべき。
- ・ 調査票の郵送提出の導入により増大する市区町村事務への対応方策の検討。
  - 調査票の受付管理、調査員への調査票未提出世帯の指示等に、IT技術を積極的に活用した事務の効率化。
  - 審査事務の外注、審査要員の確保、職員手当などの経費の確保。
  - 短期間で審査を行うためには体制整備を図る必要がある。そのためのモデルを示してほしい。
  - 世帯への電話照会の件数を極力抑えるための調査票の設計の工夫や調査項目の再検討。

【指導員事務についての意見・提案】

- ・ 新たな調査方法の導入に伴って市区町村事務の増大が想定される中、指導員の役割は重要となる。一方、多くの市区町村で職員が指導員を兼務している実状を勘案すると、指導員事務を市区町村事務にするなど、指導員の位置づけについては根本的に検討する必要がある。
- ・ 指導員事務の検討に当たっては、指導員の多くは市区町村職員が兼務しているために勤務時間中に指導員事務を行うことが困難であることを考慮してほしい。
- ・ 増大する市区町村事務を支援するために指導員事務を検討する必要がある。
  - フォローアップ回収時の調査員への同行。
  - 調査票審査時の世帯への電話照会。
  - 「受付状況確認リスト」からの調査票未提出世帯の確定（『世帯名簿』への記入）。
  - 調査員への調査票未提出世帯の指示。

(4) 効率的な調査票回収状況の把握方法について

- ・ バーコードの自動読取装置を設置した拠点を設け、提出された調査票のバーコードは、そこで一括して読み取り、提出情報だけをリアルタイムで「調査票受付状況管理システム」に送信し、調査票は別便により各市区町村に送付される仕組みを検討してほしい。
- ・ 世帯名簿番号と調査区番号、また、名簿内一連番号と世帯番号は、それぞれ別のものとせず、予め調査区番号及び世帯番号でバーコードを作成する。
- ・ 提出された調査票の調査区番号、世帯番号及び世帯主の氏名を読み取り、新たに「調査票提出世帯名簿」を作成し、調査員が作成した『世帯名簿』と照合する。

(5) フォローアップ回収の効率的な方法について

- ・ 申告義務及び罰則の積極的な広報。
- ・ 悪質な非協力への罰則適用の検討。

- ・ アパート、マンション等の未提出世帯に対し、管理会社から直接世帯に調査票の提出を督促。
- ・ ワンルームマンション、学生寮等の調査を管理会社や大学などに委託。
- ・ 督促状の配布回数の増加。
- ・ 市区町村職員によるフォローアップ回収の実施。

## 8 平成22年国勢調査の実施に向けての意見・提案

### 【広報・協力依頼】

- ・ 不動産業者、マンション管理会社等への協力の徹底。
- ・ マンション管理会社等への調査票の配布・収集業務の委託。
- ・ 調査方法の工夫だけでは対処できない部分もある。広報・教育・協力依頼を通じ、国勢調査の意義を周知し、国民に積極的な協力を促すような環境整備が重要。
- ・ 調査への協力が任意であると誤解している世帯も多い。申告義務や罰則規定についても周知すべき。
- ・ 統計調査と個人情報保護法との関係を曲解している世帯も多いので、あらゆる機会を捉えて周知を図る必要。

### 【調査員】

- ・ 円滑に調査を実施するため、調査員証の提示、調査の趣旨・目的等、世帯に説明すべき最低限の事項をまとめたリーフレットを調査員に携帯させて、全国一律な世帯に対する説明方法を確立していく必要がある。
- ・ 調査員を確保するためには、不在世帯への訪問回数に上限を設けるなど、調査員事務の効率化を図りつつ、具体的な条件を示す必要がある。

### 【調査方法】

- ・ 調査員回収を原則としたほうがよい。

郵送提出の導入は、必ずしも調査票回収率の向上に寄与していないことから、全世帯封入提出による調査員回収を原則としてはどうか。

市区町村の体制を考えると、任意封入提出による調査員回収を原則とし、市区町村の実状に応じて、全世帯封入提出による調査員回収を実施し、面接困難な世帯や郵送提出を希望する世帯に対し、郵送提出ができるようにすることが適当ではないか。

- ・ 郵送提出についての意見・提案

フォローアップ回収時の督促に当たっては、「調査票が提出されない場合には、何度でも調査員が訪問する」ということを強調し、世帯に調査票の提出を促すチラシを配布したほうがよい。

世帯は調査票を提出したと主張しているが、市区町村に届いていないなどの世帯とのトラブルが懸念される。また、郵便事故による調査票の紛失への対応を検討する必要がある。

郵便局でバーコードの読取を行い、提出情報だけをリアルタイムで「調査票受付状況管理システム」に送信し、調査票は別便により各市区町村に送付される仕組みの検討。

- ・ 調査協力へのインセンティブを与える方策を検討してはどうか。

照会番号による抽選で国の施設の利用割引券が当たるようにするなど、経費をかけずに世帯にインセンティブを与える工夫。  
調査のPRに協力的な企業等に、エコマークのような企業イメージの向上につながるものを与えてはどうか。

- ・ 単身世帯の調査

調査が困難な「学生アパート」については、大学等の授業で時間を割いて国勢調査の講義を開催してもらうなどの方策を（経費措置も含め）検討してほしい。  
放送時間（出勤前、深夜時間帯など）やメディアの見直し（バナー広告、検索エンジン広告など）による単身世帯などの不在世帯などへの啓発活動の強化。  
郵送方式でも調査は困難なため、インターネット調査、人材派遣会社・所属組織等を通じた地域以外からのアプローチによる調査など、他の調査方法との併用が必要。

### 【市区町村事務】

- ・ 世帯から提出された調査票をOCRで入力し、回収状況の把握、審査、要計表集計をシステム的に行い、市区町村の事務負担を軽減し、市区町村はできる限りフォローアップ回収に専念することが望ましい。
- ・ 指導員事務を含めて市区町村事務の大幅な見直しを行う。

指導員を廃止し、市区町村事務とする。  
調査員と指導員の兼務を認める。  
調査員事務、指導員事務の全部又は一部を外部委託できるようにする。

- ・ 要計表人口の発表を遅らせる、あるいは要計表人口を廃止し、審査期間を延長するか、市区町村の審査事務は『調査区要図』と『世帯名簿』と調査票の全てが揃っているかのみ限定する。もしくは今回の審査のように記入漏れや記入不備をチェックした段階で国へ提出し、コールセンター等で一括して照会を行うなど、照会審査事務を市区町村から国へ移管し、従前の役割分担を改める必要がある。
- ・ 郵送方式の導入に伴う調査票の記入不備の増加が懸念されるため、従来の結果精度を維持するためには、調査票審査時には行政資料等を活用する必要がある。（住民基本台帳、外国人登録、水道の開栓情報、電力会社の契約状況情報、ガス会社の契約状況情報）

### 【その他】

- ・ 本調査計画の早期策定及び市区町村への情報提供

### 第3 審査結果記録表の取りまとめ結果

#### 1 記入不備の状況別世帯数及び世帯照会の状況

調査票に記入不備<sup>注)</sup>が一つでもある世帯のうち、電話番号の記入があった世帯の割合は63.8%となっている。

記入不備があり、かつ電話番号の記入がある世帯のうち、連絡がとれた世帯の割合は、全体の15.8%で、電話番号の記入のある世帯の4件に1件の割合となっている。

また、連絡がとれた世帯について、記入不備の補筆訂正の状況を見ると、記入不備のすべてを補筆訂正できた世帯の割合が最も高く83.2%を占めている。

次に、地域特性別にみると、電話番号の記入のある世帯の割合は、調査困難地域(65.8%)が一般地域(62.7%)を上回っているものの、連絡がとれた世帯の割合及び記入不備のすべてを補筆訂正できた世帯の割合は、いずれも一般地域(17.8%、89.7%)が調査困難地域(12.3%、66.3%)を上回っている。

注) 今回の試験調査では、次の場合を記入不備とした。

- ・「1 氏名及び男女の別」欄に記入してある男女別の世帯員の数と「(1)世帯員の数」の男女別の世帯員の数が不一致の場合
- ・調査項目各欄(電話番号及び世帯の種類を含む)に記入漏れがある場合

表1 記入不備及び世帯照会の状況

	記入不備が一つでもある世帯	割合(%)						
		うち電話番号の記入のある世帯	うち連絡がとれた世帯	連絡がとれた世帯に対する割合(%)				
				総数	記入不備のすべてを補筆訂正できた世帯	記入不備の一部を補筆訂正できた世帯	記入不備を補筆訂正できなかった世帯	
総数	10,480	63.8	15.8	100.0	83.2	11.2	5.6	
調査票	調査票甲	5,206	64.8	15.3	100.0	83.3	12.6	4.1
	調査票乙	5,274	62.9	16.4	100.0	83.1	9.9	6.9
地域特性	調査困難地域	3,754	65.8	12.3	100.0	66.3	20.3	13.4
	オートロックマンション	1,772	72.6	14.1	100.0	72.0	15.6	12.4
	単身者が居住する住宅の多い地域	788	57.6	11.3	100.0	53.9	18.0	28.1
	外国人の多い地域	1,194	61.0	10.4	100.0	63.7	31.5	4.8
	一般地域	6,726	62.7	17.8	100.0	89.7	7.7	2.6
	一戸建の多い地域	3,793	62.8	17.7	100.0	90.3	7.6	2.1
	共同住宅の多い地域	2,933	62.6	17.9	100.0	89.0	7.8	3.2

## 2 調査票各欄の記入不備及び世帯照会の状況

### (1) 世帯員に関する調査項目

世帯員に関する調査項目について、記入不備と世帯照会の状況を見ると、記入不備の件数に占める補筆訂正できた件数の割合(補筆率)は、「1週間に仕事をしましたか」(20.6%)が最も高く、次いで「教育」(20.3%)、「配偶者の有無」(16.9%)の順となっている。一方、「国籍」の国名(0.5%)が最も低く、次いで「5年前はどこに住んでいましたか」の区町村名(3.8%)、同欄のマーク(6.1%)の順となっている。

また、連絡がとれた件数に占める補筆訂正できた件数の割合(照会回答率)を見ると、すべての調査事項で80%を上回っている。

これを地域特性別にみると、調査困難地域では、一般地域と比較してすべての調査項目で補筆率が下回っている。また、照会回答率を見ると、調査困難地域では、「本人の仕事の内容」の種類で41.7%と半数を下回るなど、「勤め先・業主などの名称及び事業の内容」及び「本人の仕事の内容」の各項目で照会回答率が低くなっている。

### (2) 世帯に関する調査項目

世帯に関する調査項目について、記入不備と世帯照会の状況を見ると、補筆率は「住宅の床面積の合計」(7.9%)が最も高くなっており、一方、「住宅の建て方」の建物全体の階数(4.1%)が最も低くなっている。

また、照会回答率は、「住宅の建て方」の建物全体の階数及び住んでいる住宅のある階(それぞれ100%)が最も高くなっており、一方、「家計の収入の種類」(85.0%)が最も低くなっている。

これを地域特性別にみると、調査困難地域では、一般地域と比較して「家計の収入の種類」及び「住宅の建て方」の建物全体の階数を除いたすべての調査項目で補筆率及び照会回答率が下回っている。

表2 調査事項別の記入不備及び世帯照会の状況

	総 数				地域特性								
	記入不備	割合(%)			記入不備	割合(%)			記入不備	割合(%)			
		うち 世帯照会 できた件数 a	補筆率 b	照会回答率 b/a		うち 世帯照会 できた件数 c	補筆率 d	照会回答率 d/c		うち 世帯照会 できた件数 e	補筆率 f	照会回答率 f/e	
総 数	51,496	13.7	12.9	94.1	20,025	7.7	6.9	89.6	31,471	17.5	16.7	95.4	
「氏名及び男女の別」欄と「世帯員の数」欄の不一致	1,434	7.4	7.2	97.2	415	5.5	5.1	91.3	1,019	8.1	8.0	98.8	
世帯主との続き柄	628	12.3	12.1	98.7	247	8.5	8.5	100.0	381	14.7	14.4	98.2	
出生の年月	元号(西暦)	1,165	13.0	12.5	96.1	435	2.8	2.8	100.0	730	19.2	18.4	95.7
	年	335	7.5	6.9	92.0	158	5.1	5.1	100.0	177	9.6	8.5	88.2
	月	354	7.6	7.3	96.3	170	5.9	5.3	90.0	184	9.2	9.2	100.0
配偶者の有無	2,199	18.1	16.9	93.0	690	8.4	8.1	96.6	1,509	22.6	20.9	92.4	
国籍	マーク	687	14.8	14.8	100.0	257	4.7	4.7	100.0	430	20.9	20.9	100.0
	国名	201	0.5	0.5	100.0	85	1.2	1.2	100.0	116	0.0	0.0	-
現在の場所に住んでいる期間	528	11.2	10.4	93.2	211	5.2	4.7	90.9	317	15.1	14.2	93.8	
5年前はどこに住んでいましたか	マーク	1,204	6.5	6.1	94.9	722	2.4	2.1	88.2	482	12.7	12.2	96.7
	都道府県名	683	7.5	7.2	96.1	417	5.8	5.3	91.7	266	10.2	10.2	100.0
	市郡支庁名	586	8.4	8.4	100.0	351	6.3	6.3	100.0	235	11.5	11.5	100.0
	区町村名	629	3.8	3.8	100.0	392	3.6	3.6	100.0	237	4.2	4.2	100.0
教育	7,787	21.1	20.3	96.1	2,435	16.1	15.1	93.6	5,352	23.4	22.6	96.9	
1週間に仕事をしましたか	3,683	21.6	20.6	95.2	1,104	17.6	17.1	97.4	2,579	23.3	22.0	94.5	
1週間に仕事をした時間	1,407	12.5	11.3	90.3	626	9.7	8.8	90.2	781	14.7	13.3	90.4	
従業地又は通学地	マーク	3,973	16.3	15.7	96.3	1,472	7.6	7.0	92.0	2,501	21.5	20.9	97.2
	都道府県名	3,607	13.6	13.1	96.1	1,409	6.0	5.3	89.3	2,198	18.5	18.0	97.5
	市郡支庁名	3,252	13.0	12.5	95.8	1,274	4.5	3.8	86.0	1,978	18.6	18.0	97.3
	区町村名	2,659	8.5	7.4	87.1	1,056	5.4	4.5	84.2	1,603	10.5	9.2	88.1
従業地又は通学地までの利用交通手段	1,481	11.6	10.4	89.5	611	8.0	6.5	81.6	870	14.1	13.1	92.7	
勤めか自営かの別	1,386	11.5	10.2	88.1	553	5.6	4.7	83.9	833	15.5	13.8	89.1	
勤め先・業主などの名称及び事業の内容	名称	1,044	9.6	7.8	81.0	420	4.3	2.4	55.6	624	13.1	11.4	86.6
	内容	1,965	13.1	12.1	92.2	721	7.1	5.4	76.5	1,244	16.6	15.9	96.1
	種類	1,101	9.5	8.3	86.7	436	5.3	2.8	52.2	665	12.3	11.9	96.3
本人の仕事の内容	内容	1,903	13.0	11.8	91.1	719	7.1	5.4	76.5	1,184	16.6	15.7	94.9
	種類	1,097	12.2	10.7	87.3	437	5.5	2.3	41.7	660	16.7	16.2	97.3
家計の収入の種類	383	5.2	4.4	85.0	170	4.7	4.7	100.0	213	5.6	4.2	75.0	
住居の種類	549	7.7	7.5	97.6	217	4.1	4.1	100.0	332	9.9	9.6	97.0	
住宅の建て方	マーク	781	5.5	5.1	93.0	417	3.6	3.1	86.7	364	7.7	7.4	96.4
	建物全体の階数	442	4.1	4.1	100.0	309	3.2	3.2	100.0	133	6.0	6.0	100.0
	住んでいる住宅のある階	551	4.2	4.2	100.0	397	3.5	3.5	100.0	154	5.8	5.8	100.0
住宅の床面積の合計	1,812	8.9	7.9	88.9	692	6.6	5.8	87.0	1,120	10.4	9.3	89.7	
別掲	電話番号	3,126	-	-	-	1,295	-	-	-	1,831	-	-	-
世帯の種類	1,512	0.2	0.2	100.0	195	0.0	0.0	-	1,317	0.2	0.2	100.0	

## 世帯アンケートの集計結果

### 1 回答者について

世帯アンケート回答者は、10,575人で、年齢階級別にみると50歳代が最も多く2,273人(21.5%)、次いで60歳代が2,015人(19.1%)となっている。

これを男女別にみると、男性は60歳代が最も多く1,008人(9.5%)、女性は50歳代が最も多く1,348人(12.7%)となっている。

表1 男女、年齢階級別回答者

	総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無記入・不詳
総数	10,575	52	658	1,589	1,847	2,273	2,015	1,715	426
(構成比)	100.0	0.5	6.2	15.0	17.5	21.5	19.1	16.2	4.0
男	4,335	24	252	520	667	898	1,008	900	66
(構成比)	41.0	0.2	2.4	4.9	6.3	8.5	9.5	8.5	0.6
女	5,759	28	403	1,056	1,165	1,348	969	721	69
(構成比)	54.5	0.3	3.8	10.0	11.0	12.7	9.2	6.8	0.7
無記入・不詳	481	0	3	13	15	27	38	94	291
(構成比)	4.5	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.4	0.9	2.8

## 2 調査員について

### (1) あなたの世帯を訪問した調査員は顔見知りの人でしたか

訪問した調査員が顔見知りの人であったかについては、「顔見知りでない人だった」の割合が最も高く48.6%となっている。

これを年齢階級別にみると、20歳代以下では「わからない・会っていない」の割合が最も高く、30歳代以上では「顔見知りでない人だった」の割合が最も高くなっている。

表2 年齢階級別、調査員は顔見知りであったか (%)

	総数	顔見知りの人 だった	顔見知りでない人 だった	わからない・ 会っていない	無記入・不詳
総数	10,575	15.2	48.6	34.7	1.5
20歳未満	52	0.0	44.2	55.8	0.0
20歳代	658	2.0	40.4	57.0	0.6
30歳代	1,589	9.6	51.5	38.5	0.4
40歳代	1,847	13.6	47.7	38.2	0.5
50歳代	2,273	15.3	49.6	34.2	0.9
60歳代	2,015	19.6	51.2	27.9	1.3
70歳以上	1,715	21.7	46.8	29.3	2.2
無記入・不詳	426	19.0	44.4	24.9	11.7

### 【参考】

#### 平成17年国勢調査事後調査の際に行った世帯アンケート結果

##### 調査員は顔見知りの人であったかについて

「顔見知りの人だった」は36.1%、「顔見知りの人ではなかった」は50.1%となり、半数が顔見知りでない調査員となっている。

年齢階級別にみると、20歳未満から50歳代は「顔見知りの人ではなかった」が最も高くなっているが、60歳代及び70歳以上では「顔見知りの人だった」が最も高くなっている。

調査員は顔見知りであったか - 年齢階級別

	総数	顔見知りの人 だった	顔見知りの人 ではなかった	分からない	会っていない
総数	6,940人	36.1%	50.1%	4.4%	7.7%
20歳未満	35	2.9	62.9	8.6	22.9
20歳代	405	8.1	68.4	5.4	17.0
30歳代	939	19.7	65.5	4.8	9.5
40歳代	1,109	32.3	51.8	6.0	9.2
50歳代	1,568	40.9	47.6	3.8	6.8
60歳代	1,411	46.2	43.5	3.6	4.5
70歳以上	1,233	45.9	42.1	3.5	5.1

(2) 今回のような郵送で調査票を提出する方法の場合、調査員は、顔見知りの人と顔見知りでない人のどちらがよいですか

調査員は、顔見知りの人と顔見知りでない人のどちらがよいかについては、「どちらでもよい」の割合が最も高く65.4%となっており、男女別にみても、大きな差異はない。

これを年齢階級別にみると、すべての年齢階級で「どちらでもよい」の割合が高くなっているが、おおむね年齢が上がるほど、「顔見知りの方がよい」の割合が高くなっている。

表3 男女別、年齢階級別、調査員は顔見知りか (％)

	総数	顔見知りの方がよい	顔見知りでない人がよい	どちらでもよい	無記入・不詳
総数	10,575	15.4	17.6	65.4	1.6
男	4,335	14.7	15.1	69.1	1.1
女	5,759	15.6	19.6	63.7	1.1
無記入・不詳	481	18.5	16.0	53.6	11.9
20歳未満	52	15.4	17.3	65.4	1.9
20歳代	658	9.0	16.0	74.3	0.8
30歳代	1,589	12.1	17.4	70.0	0.4
40歳代	1,847	11.5	17.3	70.2	1.0
50歳代	2,273	14.2	19.8	65.0	1.0
60歳代	2,015	16.2	19.2	63.5	1.1
70歳以上	1,715	24.1	13.9	59.6	2.4
無記入・不詳	426	21.6	16.9	49.5	12.0

【参考】

平成17年国勢調査事後調査の際に行った世帯アンケート結果

調査員は顔見知りの方がよいかについて

「顔見知りの方がよい」が40.0%、「顔見知りでない人がよい」が23.0%、「どちらでもよい」が34.1%となっている。

年齢階級別にみると、20歳未満から40歳代は「どちらでもよい」が最も高く、50歳代から70歳以上は「顔見知りの方がよい」が最も高くなっている。

調査員は顔見知りの方がよいか - 年齢階級別

	総数	顔見知りの方がよい	顔見知りでない人がよい	どちらでもよい
総数	6,940人	40.0%	23.0%	34.1%
20歳未満	35	17.1	11.4	71.4
20歳代	405	26.7	19.3	52.3
30歳代	939	32.7	23.3	42.6
40歳代	1,109	35.3	25.3	37.3
50歳代	1,568	37.0	27.3	33.8
60歳代	1,411	44.2	24.3	28.6
70歳以上	1,233	53.9	16.2	25.2

### 3 調査の方法について

#### (1) 調査票をどのように受け取りましたか

調査票をどのように受け取ったかについては、「調査員から受け取った」の割合が高く60.7%となっている。

これを男女別にみると、女性は男性に比べて「調査員から受け取った」の割合が高くなっている。

また、年齢階級別にみると、20歳代以下では「郵便受けなどに入れてあった」の割合が最も高く、30歳代以上では「調査員から受け取った」の割合が最も高くなっている。

表4 男女別、年齢階級別、調査票の受け取り方 (%)

	総数	調査員から受け取った	郵便受けなどに入れてあった	その他	無記入・不詳
総数	10,575	60.7	35.4	2.5	1.4
男	4,335	55.6	41.2	2.1	1.1
女	5,759	65.1	31.3	2.7	0.9
無記入・不詳	481	53.8	32.4	4.4	9.4
20歳未満	52	34.6	63.5	1.9	0.0
20歳代	658	36.5	61.1	1.8	0.6
30歳代	1,589	56.3	41.2	2.0	0.5
40歳代	1,847	58.6	37.1	3.5	0.8
50歳代	2,273	63.5	32.0	3.5	0.9
60歳代	2,015	68.8	28.2	1.9	1.0
70歳以上	1,715	65.0	31.5	1.6	2.0
無記入・不詳	426	55.4	31.5	3.3	9.9

#### 【参考】

#### 平成17年国勢調査事後調査の際に行った世帯アンケート結果

調査票をどのように受け取ったかについて

調査票を「調査員から受け取った」が87.0%と最も高く、次いで「郵便受けなどに入れてあった」が8.6%、「その他」が3.0%となっている。

年齢階級別にみると、調査票を「調査員から受け取った」は60歳代及び70歳以上は90%以上、30歳代から50歳代は80%台となっているが、20歳代は64.4%、20歳未満は57.1%となっている。

調査票をどのように受け取ったか - 年齢階級別

	総数	調査員から受け取った	郵便受けなどに入れてあった	その他
総数	6,940人	87.0%	8.6%	3.0%
20歳未満	35	57.1	37.1	5.7
20歳代	405	64.4	29.6	4.7
30歳代	939	82.2	12.5	4.0
40歳代	1,109	85.3	8.7	5.1
50歳代	1,568	89.5	6.7	2.9
60歳代	1,411	91.6	5.4	1.6
70歳以上	1,233	93.6	3.5	1.3

(2) 調査票をどのように提出しましたか

ア 男女・年齢別の状況

調査票をどのように提出したかについては、「郵送で提出した」の割合が最も高く92.0%となっており、男女別にみても、大きな差異はない。

また、年齢階級別にみると、「郵送で提出した」の割合はほぼすべての年齢階級で90%以上となっている。「市・区役所又は町役場に直接提出した」の割合は、おおむね年齢が上がるほど高くなっている。「封筒に入れ、調査員に提出した」の割合は、20歳代が4.6%と最も高くなっている。

表5 男女別、年齢階級別、調査票の提出方法 (%)

	総数	郵送で提出した	市・区役所又は町役場に直接提出した	封筒に入れ、調査員に提出した	封筒に入れ、封筒に入れ、そのまま調査員に提出した	その他の方法で提出した	無記入・不詳
総数	10,575	92.0	2.3	3.5	0.4	0.5	1.2
男	4,335	91.7	2.8	3.6	0.4	0.5	0.9
女	5,759	93.3	1.9	3.2	0.4	0.4	0.8
無記入・不詳	481	78.8	2.3	5.6	1.0	2.5	9.8
20歳未満	52	94.2	0.0	3.8	0.0	0.0	1.9
20歳代	658	91.5	1.1	4.6	0.6	0.6	1.7
30歳代	1,589	93.3	1.9	3.6	0.3	0.6	0.4
40歳代	1,847	93.7	1.6	3.5	0.3	0.2	0.7
50歳代	2,273	93.1	2.6	3.0	0.2	0.3	0.8
60歳代	2,015	92.8	2.9	3.1	0.3	0.1	0.8
70歳以上	1,715	89.4	3.0	3.9	1.0	1.4	1.3
無記入・不詳	426	81.2	1.9	4.5	0.5	1.9	10.1

イ 郵送提出以外の方法で提出した理由

調査票を郵送提出以外の方法で提出した人について、その理由を調査票の提出方法別にみると、「その他」を除けば、「市・区役所又は町役場に直接提出した」では、「調査員に記入内容を確認してほしかったから」(6.2%)、「郵便ポストに投函するのがめんどろだったから」(5.8%)、「近くに郵便ポストがなかったから」(5.0%)の割合が比較的高くなっている。「封筒に入れ、調査員に提出した」では、「調査員に提出するものだと思ったから」(17.5%)、「調査員に見られても特に困ることはないから」(14.8%)の割合が比較的高くなっている。

また、「封筒に入れ、そのまま調査員に提出した」では、「調査員に見られても特に困ることはないから」(29.5%)、「調査員に記入内容を確認してほしかったから」(15.9%)の割合が比較的高くなっている。

表6 調査票の提出方法別、郵送提出以外の方法で提出した理由 (%)

	総数	<その理由>							その他	無記入・不詳
		調査員に提出するものだと思ったから	郵送提出できることを知らなかったから	調査員に記入内容を確認してほしかったから	近くに郵便ポストがなかったから	郵便ポストに投函するのがめんどろだったから	調査員が顔見知りなので、郵送提出しにくかったから	調査員に見られても特に困ることはないから(郵送する理由がないから)		
総数	715	10.3	2.2	7.3	3.4	8.4	1.0	10.8	41.3	15.4
市・区役所又は町役場に直接提出した	242	0.8	1.2	6.2	5.0	5.8	0.8	3.3	66.1	10.7
封筒に入れ、調査員に提出した	371	17.5	2.4	6.7	3.0	10.5	1.3	14.8	28.0	15.6
封筒に入れ、そのまま調査員に提出した	44	9.1	2.3	15.9	0.0	4.5	0.0	29.5	20.5	18.2
その他の方法で提出した	58	5.2	5.2	8.6	1.7	8.6	0.0	1.7	37.9	31.0

(3) 今回のような郵送で調査票を提出する方法をどのように思いますか

ア 男女・年齢別の状況

郵送で調査票を提出する方法については、「調査員に手渡さなくてよいので、提出しやすい」の割合が最も高く85.4%となっている。

これを年齢別にみると、ほぼすべての年齢階級で「調査員に手渡さなくてよいので、提出しやすい」の割合が80%以上となっている。

なお、70歳以上では、「他の方法で提出する方がよい」の割合（16.2%）が比較的高くなっている。

表7 男女別、年齢別階級、郵送で調査票を提出する方法について (%)

	総数	調査員に手渡さなくてもよいので、提出しやすい	他の方法で提出する方がよい	わからない	無記入・不詳
総数	10,575	85.4	8.0	4.2	2.5
男	4,335	86.0	7.8	4.3	1.9
女	5,759	86.8	7.4	3.9	2.0
無記入・不詳	481	62.6	16.6	6.4	14.3
20歳未満	52	90.4	0.0	9.6	0.0
20歳代	658	85.6	5.3	7.9	1.2
30歳代	1,589	87.6	5.8	5.3	1.3
40歳代	1,847	87.8	5.5	5.1	1.6
50歳代	2,273	90.2	5.4	3.3	1.2
60歳代	2,015	87.5	7.3	3.0	2.1
70歳以上	1,715	76.2	16.2	3.0	4.6
無記入・不詳	426	66.2	15.7	4.2	13.8

【参考】

平成17年国勢調査事後調査の際に行った世帯アンケート結果

郵送提出を希望するかについて

郵送提出を「希望する」は46.9%、「希望しない」は43.4%となっている。

年齢階級別にみると、20歳代から50歳代では「希望する」が「希望しない」を上回っているが、他の年齢階級では「希望しない」が上回っている。

調査票の郵送提出を希望するか - 年齢階級別

	総数	希望する	希望しない
総数	6,940人	46.9%	43.4%
20歳未満	35	17.1	77.1
20歳代	405	53.6	40.2
30歳代	939	54.0	41.3
40歳代	1,109	55.4	38.2
50歳代	1,568	51.5	41.6
60歳代	1,411	44.5	46.8
70歳以上	1,233	35.2	53.9

イ 他の方法で提出する方がよい理由

「他の方法で提出する方がよい」と回答した人について、その理由をみると、「郵便ポストに投函しに行くのがめんどうだから」の割合が21.6%と最も高く、次いで「市・区役所又は町役場に届いたかどうか分からないから」の割合が20.2%となっている。

これを男女別にみると、男性は「市・区役所又は町役場に届いたかどうか分からないから」の割合が21.8%と最も高く、女性は「郵便ポストに投函しに行くのがめんどうだから」の割合が24.6%と最も高くなっている。

また、年齢階級別にみると、20～40歳代では「郵便ポストに投函しに行くのがめんどうだから」の割合が、50歳代では「市・区役所又は町役場に届いたかどうか分からないから」の割合が、60歳以上では「提出する際に調査事項についての質問ができないから」の割合が、それぞれ最も高くなっている。

表8 男女別、年齢階級別、他の方法で提出する方がよい理由 (％)

	総数	<その理由>				
		市・区役所又は町役場に届いたかどうか分からないから	郵便ポストに投函しに行くのがめんどうだから	提出する際に調査事項についての質問ができないから	その他	無記入・不詳
総数	843	20.2	21.6	15.5	15.8	27.0
男	338	21.8	19.7	17.1	16.3	25.2
女	425	20.0	24.6	13.3	15.6	26.5
無記入・不詳	80	13.6	12.3	21.0	14.8	38.3
20歳未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	35	19.0	45.2	11.9	11.9	11.9
30歳代	92	30.9	40.0	8.2	15.5	5.5
40歳代	101	31.4	32.2	11.0	16.1	9.3
50歳代	122	31.3	21.8	14.3	15.0	17.7
60歳代	148	17.8	17.2	20.9	16.0	28.2
70歳以上	278	9.3	11.4	18.0	16.6	44.6
無記入・不詳	67	11.8	11.8	16.2	16.2	44.1

ウ どのような方法がよいですか

「他の方法で提出する方がよい」と回答した人について、希望する方法をみると、「調査員に封をして提出する方がよい」の割合が41.8%と最も高く、次いで「市・区役所又は町役場に直接提出する方がよい」の割合が18.8%となっている。

これを男女別にみると、女性は男性に比べて「調査員に封をして提出する方がよい」の割合が高くなっている。

また、年齢階級別にみると、20歳代及び30歳代は「インターネットを利用して回答する方がよい」の割合が、40歳代以上は「調査員に封をして提出する方がよい」の割合が、それぞれ最も高くなっている。

表9 男女別、年齢階級別、希望する方法 (％)

	総数	<希望する方法>				
		調査員に封をして提出する方がよい	直接市・区役所又は町役場に直接提出する方がよい	インターネットを利用して回答する方がよい	その他	無記入・不詳
総数	843	41.8	18.8	12.5	14.4	12.5
男	338	39.1	20.7	15.2	12.2	12.8
女	425	45.1	15.9	12.0	15.5	11.6
無記入・不詳	80	36.0	25.6	3.5	18.6	16.3
20歳未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	35	25.0	10.0	50.0	10.0	5.0
30歳代	92	27.6	15.2	35.2	12.4	9.5
40歳代	101	35.0	14.2	30.8	10.0	10.0
50歳代	122	44.4	17.8	9.6	14.1	14.1
60歳代	148	49.1	16.6	2.5	14.7	17.2
70歳以上	278	48.3	23.0	1.4	16.2	11.1
無記入・不詳	67	34.8	26.1	1.4	20.3	17.4

(4) インターネットを利用して回答する方法について、どのように思いますか

ア 男女・年齢別の状況

インターネットを利用して回答する方法については、「インターネットを利用して回答したいとは思わない」の割合が最も高く49.1%となっている。

これを男女別にみると、男性の「インターネットを利用して回答したい」の割合は、女性のほぼ2倍となっている。

また、年齢階級別にみると、30歳代以下は「どちらともいえない」の割合が、40歳代以上は「インターネットを利用して回答したいとは思わない」の割合が、それぞれ最も高くなっている。

表10 男女別、年齢階級別、インターネットを利用して回答する方法について (%)

	総数	インターネットを利用して回答したい	インターネットを利用して回答したいとは思わない	どちらともいえない	無記入・不詳
総数	10,575	10.2	49.1	30.7	10.0
男	4,335	14.4	45.0	32.1	8.5
女	5,759	7.3	53.1	30.8	8.8
無記入・不詳	481	6.0	38.0	18.1	37.8
20歳未満	52	25.0	30.8	44.2	0.0
20歳代	658	26.9	23.6	47.6	2.0
30歳代	1,589	18.4	38.5	41.3	1.8
40歳代	1,847	14.9	45.3	37.0	2.8
50歳代	2,273	8.0	57.6	30.0	4.4
60歳代	2,015	4.6	60.3	23.8	11.2
70歳以上	1,715	1.2	51.6	19.2	28.0
無記入・不詳	426	4.7	38.3	19.5	37.6

【参考】

平成17年国勢調査事後調査の際に行った世帯アンケート結果

インターネット調査を希望するかについて

インターネット調査を「希望する」は12.3%、「希望しない」は78.2%となっている。

これを年齢階級別にみると、30歳代以下では「希望する」は20%台となっているが、40歳代及び50歳代は10%台、60歳代以上では10%未満となっている。

インターネット調査を希望するか - 年齢階級別

	総数	希望する	希望しない
総数	6,940人	12.3%	78.2%
20歳未満	35	20.0	80.0
20歳代	405	28.1	68.1
30歳代	939	24.8	70.9
40歳代	1,109	18.9	76.7
50歳代	1,568	11.0	83.1
60歳代	1,411	5.7	85.5
70歳以上	1,233	2.0	84.4

イ 住居の種類別の状況

インターネットを利用して回答する方法について、住居の種類別にみると、すべての住居の種類で「インターネットを利用して回答したいとは思わない」の割合が最も高くなっているが、「オートロックマンション」及び「オートロック以外のアパート・マンション」では「インターネットを利用して回答したい」の割合が比較的高くなっている。

表11 住居の種類別、インターネットを利用して回答する方法について (％)

	総数	インターネットを利用して回答したい	インターネットを利用して回答したいとは思わない	どちらともいえない	無記入・不詳
総数	10,575	10.2	49.1	30.7	10.0
農林漁家	133	3.8	56.4	26.3	13.5
商店	81	6.2	56.8	24.7	12.3
一戸建住宅	5,393	6.2	56.0	26.6	11.2
オートロックマンション	2,084	18.1	41.0	36.9	3.9
オートロック以外のアパート・マンション	2,095	14.7	41.2	37.5	6.6
その他	395	4.8	51.4	31.1	12.7
無記入・不詳	394	5.8	33.5	20.6	40.1

#### 4 調査票及び「調査票の記入のしかた」について

##### (1) 「住宅の床面積の合計（延べ面積）」欄について

###### ア 調査票の記入はいかがでしたか

調査票の「住宅の床面積の合計（延べ面積）」欄の記入については、調査票甲（従来方式）調査票乙（選択肢方式）ともに「記入しやすかった」の割合が最も高くなっているが、調査票乙の「記入しにくかった」の割合は調査票甲と比べて高くなっている。

これを年齢階級別にみると、調査票甲では20歳代で、調査票乙では20歳代以下で、「記入しにくかった」の割合が最も高くなっている。

表12 年齢階級別、調査票の記入について

(%)

	調査票 甲					調査票 乙				
	総数	記入しやすかった	記入しにくかった	どちらともいえない	無記入・不詳	総数	記入しやすかった	記入しにくかった	どちらともいえない	無記入・不詳
総数	5,355	50.2	25.4	21.4	3.0	5,220	49.5	31.5	16.1	2.9
20歳未満	24	54.2	16.7	29.2	0.0	28	17.9	50.0	32.1	0.0
20歳代	344	33.7	42.7	21.5	2.0	314	32.2	46.5	20.4	1.0
30歳代	830	42.5	31.1	25.8	0.6	759	44.7	35.3	19.1	0.9
40歳代	929	47.9	24.9	26.3	1.0	918	49.8	28.3	20.6	1.3
50歳代	1,122	52.3	23.9	22.5	1.2	1,151	52.9	30.4	15.3	1.4
60歳代	1,032	59.2	18.4	19.9	2.5	983	56.7	27.1	13.5	2.7
70歳以上	841	55.3	25.7	12.1	6.9	874	50.5	33.1	11.2	5.3
無記入・不詳	233	42.5	20.6	19.7	17.2	193	37.8	26.9	13.5	21.8

###### イ 記入しにくかった理由

「記入しにくかった」と回答した人について、その理由をみると、調査票甲については、「住宅の床面積がわからない」の割合が最も高く66.4%となっている。また、調査票乙についても、「住宅の床面積がわからない」の割合が最も高く38.5%となっているが、「坪数が書かれていないのでわかりづらい」の割合も29.8%と高くなっている。

これを年齢階級別にみると、調査票甲では、すべての年齢階級で「住宅の床面積がわからない」の割合が最も高くなっているが、調査票乙では、60歳代以上で「坪数が書かれていないのでわかりづらい」の割合が高くなっている。

表13 年齢階級別、調査票が記入しにくかった理由

(%)

	調査票 甲									調査票 乙								
	総数	<その理由>								総数	<その理由>							
		説明部分の文字が小さい	回答部分の文字が小さい	記入スペースが小さい	調査票の印刷の色がうすい	住宅の床面積がわからない	その他	無記入・不詳			説明部分の文字が小さい	回答部分の文字が小さい	マークが記入しにくい	調査票の印刷の色がうすい	住宅の床面積がわからない	坪数が書かれていないのでわかりづらい	その他	無記入・不詳
総数	1,362	9.5	4.0	4.5	1.3	66.4	12.6	1.7	1,645	9.4	7.7	6.2	1.7	38.5	29.8	5.8	0.8	
20歳未満	4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	14	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	35.0	5.0	0.0	
20歳代	147	1.9	0.6	1.3	0.0	87.9	7.0	1.3	146	1.4	1.0	4.3	0.5	64.3	22.7	5.8	0.0	
30歳代	258	3.6	0.7	1.1	0.4	80.0	12.1	2.1	268	3.1	2.0	4.0	0.0	61.3	23.7	5.1	0.8	
40歳代	231	6.3	2.6	3.0	1.5	74.6	11.2	0.7	260	7.5	6.2	6.7	1.2	42.6	27.7	7.5	0.5	
50歳代	268	9.8	4.6	5.8	0.6	65.7	11.0	2.4	350	9.8	9.5	7.3	3.3	32.7	31.7	5.5	0.2	
60歳代	190	12.4	5.6	6.4	2.6	55.4	15.5	2.1	266	12.6	9.8	6.7	1.3	27.8	35.9	4.8	1.1	
70歳以上	216	18.9	8.7	7.7	2.1	43.7	17.5	1.4	289	15.5	11.7	6.9	2.6	26.4	30.6	5.2	1.2	
無記入・不詳	48	15.0	3.3	5.0	3.3	61.7	11.7	0.0	52	11.0	9.6	4.1	0.0	24.7	31.5	12.3	6.8	

(2) 「勤め先・業主などの名称及び事業の内容」欄について

ア 調査票の記入はいかがでしたか

調査票の「勤め先・業主などの名称及び事業の内容」欄の記入については、調査票甲、乙<sup>注)</sup>ともに「記入しやすかった」の割合が高くなっている。

これを年齢階級別にみると、調査票甲、乙ともに、すべての年齢階級で「記入しやすかった」の割合が高くなっている。

また、調査票甲と乙を比べると、「記入しやすかった」の割合は、30歳代以下では調査票甲が調査票乙を上回り、40歳代以上では調査票乙が調査票甲を上回っている。一方「記入しにくかった」の割合は、ほぼすべての年齢階級で調査票乙が調査票甲を上回っている。

注) 調査票甲は、従来の「勤め先・業主などの名称」及び「事業の内容」のほか、「事業の種類」(産業大分類)も世帯で記入することとし、調査票乙については、「事業の内容」のみを世帯で記入することとした。

表14 年齢階級別、調査票の記入について (％)

	調査票 甲					調査票 乙				
	総数	記入しやすかった	記入しにくかった	どちらともいえない	無記入・不詳	総数	記入しやすかった	記入しにくかった	どちらともいえない	無記入・不詳
総数	5,355	46.3	18.9	21.9	13.0	5,220	46.9	21.0	19.9	12.1
20歳未満	24	45.8	16.7	29.2	8.3	28	35.7	21.4	35.7	7.1
20歳代	344	48.3	20.1	29.7	2.0	314	43.0	28.3	27.4	1.3
30歳代	830	51.6	23.6	23.9	1.0	759	49.4	27.5	22.5	0.5
40歳代	929	48.9	24.0	25.0	2.2	918	51.1	25.6	21.8	1.5
50歳代	1,122	51.2	23.4	21.8	3.5	1,151	52.1	22.9	21.7	3.2
60歳代	1,032	46.9	14.9	22.4	15.8	983	50.7	15.3	18.3	15.8
70歳以上	841	33.7	8.7	13.3	44.4	874	34.6	13.3	12.8	39.4
無記入・不詳	233	32.6	12.4	19.3	35.6	193	31.6	15.0	15.0	38.3

イ 記入しにくかった理由

「記入しにくかった」と回答した人について、その理由をみると、調査票甲については、自由記入欄である「勤め先・業主などの名称」及び「事業の内容」では「求められている内容がわかりにくい」の割合が最も高くなっており、マーク欄である「事業の種類」では「どの事業に該当するかわからない」の割合が最も高くなっている。

また、調査票乙については、「求められている内容がわかりにくい」の割合が最も高くなっている。

表15 年齢階級別、調査票が記入しにくかった理由

(%)

	総数	理由									
		説明部分の文字が小さい	回答部分の文字が小さい	記入スペースが小さい	マークが記入しにくい	調査票の印刷の色がうすい	求められている内容がわかりにくい	どの事業に該当するかわからない	その他	無記入・不詳	
勤め先・業主などの名称											
調査票 甲	総数	1,011	7.1	4.0	7.8	-	0.9	13.5	-	7.4	59.3
	20歳未満	4	0.0	0.0	0.0	-	0.0	25.0	-	0.0	75.0
	20歳代	69	5.4	5.4	8.1	-	0.0	28.4	-	4.1	48.6
	30歳代	196	4.0	3.6	13.0	-	0.4	15.7	-	6.7	56.5
	40歳代	223	4.8	4.8	8.4	-	1.2	13.3	-	6.4	61.0
	50歳代	263	8.5	3.8	4.4	-	1.4	14.0	-	6.8	61.1
	60歳代	154	8.1	2.9	7.0	-	0.6	8.1	-	9.9	63.4
	70歳以上	73	15.9	4.9	3.7	-	1.2	6.1	-	12.2	56.1
	無記入・不詳	29	9.1	3.0	12.1	-	0.0	9.1	-	9.1	57.6
	事業の内容										
調査票 甲	総数	1,011	7.0	3.2	4.7	-	0.8	33.0	-	6.4	44.9
	20歳未満	4	0.0	0.0	0.0	-	0.0	25.0	-	0.0	75.0
	20歳代	69	2.8	1.4	5.6	-	0.0	55.6	-	0.0	34.7
	30歳代	196	3.9	3.0	5.7	-	0.9	48.3	-	5.7	32.6
	40歳代	223	6.5	3.5	5.0	-	0.4	42.3	-	6.9	35.4
	50歳代	263	9.9	4.3	4.3	-	1.3	26.4	-	5.3	48.5
	60歳代	154	7.6	2.9	4.1	-	1.2	15.1	-	9.9	59.3
	70歳以上	73	7.8	2.6	1.3	-	0.0	9.1	-	7.8	71.4
	無記入・不詳	29	9.4	0.0	9.4	-	0.0	15.6	-	12.5	53.1
	事業の種類										
調査票 甲	総数	1,011	7.1	4.2	-	2.3	0.9	21.5	22.2	5.6	36.2
	20歳未満	4	0.0	0.0	-	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0
	20歳代	69	2.4	0.0	-	0.0	0.0	36.9	26.2	2.4	32.1
	30歳代	196	3.9	2.3	-	3.1	0.8	25.8	31.6	4.3	28.1
	40歳代	223	6.8	4.7	-	2.4	1.0	28.0	25.7	4.7	26.7
	50歳代	263	9.9	6.3	-	2.4	1.5	19.5	19.8	5.1	35.6
	60歳代	154	8.5	5.6	-	2.8	0.6	9.6	10.2	9.6	53.1
	70歳以上	73	7.5	2.5	-	1.3	0.0	6.3	10.0	7.5	65.0
	無記入・不詳	29	10.8	0.0	-	0.0	0.0	13.5	24.3	10.8	40.5
	事業の内容										
調査票 乙	総数	1,098	12.6	-	14.2	-	2.0	71.5	-	17.1	2.1
	20歳未満	6	0.0	-	0.0	-	0.0	100.0	-	0.0	0.0
	20歳代	89	2.2	-	12.4	-	1.1	83.1	-	12.4	1.1
	30歳代	209	4.8	-	14.4	-	0.0	80.4	-	10.0	0.5
	40歳代	235	8.5	-	11.5	-	1.7	77.4	-	14.5	0.9
	50歳代	264	14.8	-	14.8	-	2.7	74.6	-	17.8	1.5
	60歳代	150	18.0	-	20.0	-	2.7	61.3	-	19.3	2.7
	70歳以上	116	29.3	-	15.5	-	4.3	45.7	-	31.9	6.0
無記入・不詳	29	20.7	-	3.4	-	3.4	44.8	-	31.0	13.8	

(3) 「本人の仕事の内容」欄について

ア 調査票の記入はいかがでしたか - 年齢別の状況

調査票の「本人の仕事の内容」欄の記入については、調査票甲、乙<sup>注)</sup>ともに「記入しやすかった」の割合が高くなっている。

これを年齢階級別にみると、調査票甲、乙ともに、すべての年齢階級で「記入しやすかった」の割合が高くなっている。

また、調査票甲と乙を比べると、「記入しにくかった」の割合は、すべての年齢階級で調査票乙が甲を上回っている。

注) 調査票甲は、従来の「本人の仕事の内容」のほか、「仕事の種類」(職業大分類)も世帯で記入することとし、調査票乙については、「本人の仕事の内容」のみを世帯で記入することとした。

表16 年齢階級別、調査票の記入について (％)

	調査票 甲					調査票 乙				
	総数	記入しやすかった	記入しにくかった	どちらともいえない	無記入・不詳	総数	記入しやすかった	記入しにくかった	どちらともいえない	無記入・不詳
総数	5,355	48.5	15.0	20.6	16.0	5,220	48.4	17.9	20.1	13.5
20歳未満	24	58.3	8.3	29.2	4.2	28	42.9	10.7	39.3	7.1
20歳代	344	51.5	16.3	29.9	2.3	314	44.6	22.6	31.8	1.0
30歳代	830	55.7	20.0	23.3	1.1	759	51.6	25.0	23.1	0.3
40歳代	929	54.4	19.8	24.0	1.8	918	53.4	23.2	22.8	0.7
50歳代	1,122	55.4	18.9	21.5	4.2	1,151	53.3	20.2	22.6	3.8
60歳代	1,032	48.2	11.0	20.3	20.4	983	54.3	11.8	17.9	16.0
70歳以上	841	28.2	6.4	11.1	54.3	874	34.4	11.0	11.7	42.9
無記入・不詳	233	34.8	5.6	14.6	45.1	193	23.8	6.7	8.3	61.1

## イ 記入しにくかった理由

「記入しにくかった」と回答した人について、その理由をみると、調査票甲については、自由記入欄である「仕事の内容」では「求められている内容がわかりにくい」の割合が最も高くなっており、マーク欄である「仕事の種類」では「どの仕事に該当するかわからない」の割合が最も高くなっている。

また、調査票乙については、「求められている内容がわかりにくい」の割合が最も高くなっている。

表17 年齢階級別、調査票が記入しにくかった理由

	総数	理由									
		説明部分の文字が小さい	回答部分の文字が小さい	記入スペースが小さい	マークが記入しにくい	調査票の印刷の色がうすい	求められている内容がわかりにくい	どの仕事に該当するかわからない	その他	無記入・不詳	
調査票 甲	仕事の内容										
	総数	801	7.4	3.1	4.4	-	0.9	35.3	-	9.3	39.6
	20歳未満	2	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	0.0	100.0
	20歳代	56	3.2	0.0	3.2	-	1.6	58.1	-	6.5	27.4
	30歳代	166	4.3	2.7	4.3	-	0.5	47.8	-	7.0	33.3
	40歳代	184	5.6	2.8	6.1	-	0.5	40.2	-	9.8	35.0
	50歳代	212	9.4	3.0	3.8	-	1.3	32.1	-	6.8	43.6
	60歳代	114	9.4	4.7	4.7	-	1.6	13.4	-	12.6	53.5
	70歳以上	54	15.6	6.3	3.1	-	0.0	15.6	-	18.8	40.6
	無記入・不詳	13	7.7	0.0	0.0	-	0.0	38.5	-	15.4	38.5
	仕事の種類										
	総数	801	6.4	3.7	-	1.7	0.8	20.8	26.7	6.5	33.3
	20歳未満	2	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	20歳代	56	2.9	0.0	-	0.0	1.5	33.8	35.3	2.9	23.5
	30歳代	166	3.3	3.3	-	1.4	0.5	25.4	36.8	4.8	24.4
	40歳代	184	5.0	4.6	-	1.7	1.2	26.1	28.6	5.4	27.4
	50歳代	212	8.6	3.9	-	1.9	0.8	19.1	22.6	5.4	37.7
60歳代	114	9.2	5.0	-	3.5	0.7	7.8	17.7	10.6	45.4	
70歳以上	54	12.7	3.2	-	0.0	0.0	7.9	14.3	14.3	47.6	
無記入・不詳	13	0.0	0.0	-	0.0	0.0	23.1	15.4	15.4	46.2	
調査票 乙	仕事の内容										
	総数	935	8.0	-	12.4	-	1.8	60.3	-	15.5	2.0
	20歳未満	3	0.0	-	0.0	-	0.0	100.0	-	0.0	0.0
	20歳代	71	1.3	-	16.5	-	0.0	64.6	-	16.5	1.3
	30歳代	190	1.5	-	14.6	-	0.5	72.3	-	9.2	1.9
	40歳代	213	4.4	-	10.7	-	2.0	66.7	-	15.5	0.8
	50歳代	233	7.5	-	11.5	-	2.5	61.3	-	16.1	1.1
	60歳代	116	14.5	-	12.4	-	1.4	50.3	-	19.3	2.1
	70歳以上	96	24.0	-	12.8	-	4.0	35.2	-	18.4	5.6
	無記入・不詳	13	7.1	-	7.1	-	0.0	42.9	-	28.6	14.3